

環境影響評価審査会委員からの指摘事項（平成29年6月9日）及び事業者の見解

番号	指 摘 事 項	事 業 者 の 見 解
1	<p>調査の方法に文献調査・資料調査が多く出てくるものの、具体的にどのような文献・資料なのかが分からないので、出所や資料名などを明示されたい。</p> <p>水環境や動物の調査海域と調査手法を示されたい。</p>	<p>調査に用いる文献・資料の一覧（別添資料-1）、水底質の調査地域と調査手法（別添資料-2）、動物の調査地域と調査手法（別添資料-3）をまとめました。</p>
2	<p>区域周辺の詳細な潮流図を示されたい。</p> <p>流向・流速の調査地点が空港沖側に1地点しか無いが、空港島から離す場合も含めた複数案の予測評価に十分なのか。</p>	<p>方法書 32～33 ページの潮流図が、既存資料から確認できる対象事業実施区域及びその周囲の潮流図です。今後、河川流量、伊勢湾口部における海水の出入り、潮汐や風等を基に潮流シミュレーションを実施し、詳細な潮流図を将来の予測と合わせて準備書でお示しします。</p> <p>なお、方法書 249～251 ページに示す流向・流速の調査は、潮流シミュレーションの現況再現を確認するために実施するものであり、空港沖側の1地点で複数地形案の比較、予測評価を行うには十分です。</p>
3	<p>水質は水産用水基準との整合により評価されたい。</p>	<p>水質については、「水質汚濁に係る環境基準について（環境省）」により定められた基準値、及び「水産用水基準第7版(2012年版)（(公社)日本水産資源保護協会）」の基準値を踏まえ、評価してまいります。</p>
4	<p>住民意見の No. 32 にあるように、陸上輸送による道路交通騒音について、特に夜間の交通は住民への影響が大きいため、影響評価の対象にした方が良い。</p>	<p>護岸の工事・埋立の工事に伴う建設資機材の搬入出は、海上より行うことを想定しており、陸上輸送による影響は評価項目に選定していません。</p> <p>なお、中部国際空港整備の際の環境影響評価では、滑走路やターミナルビル等の空港関係施設を整備するにあたって、建設資機材の搬入が必要であったことから、道路交通騒音や振動の影響を評価対象とされています。</p>
5	<p>現在の空港島を造成する際のアセスの結果を、今回の予測評価に活用されたい。</p>	<p>ご指摘の通り、現在の中部国際空港整備の際の環境影響評価の結果を確認し、本事業による環境影響評価の参考とします。</p>

番号	指 摘 事 項	事 業 者 の 見 解
6	<p>港湾機能の強化維持によって発生する土砂 1,200 万<sup>3</sup>mの根拠や、その必要性について、十分な説明が必要である。</p>	<p>名古屋港港湾計画<sup>*</sup>に位置づけられた、港湾機能の強化や維持に対応するために発生する土砂は約 2,100 万<sup>3</sup>mです。(対象施設は下記参照)</p> <p>そのうち、名古屋港内の工事中埋立地、及び現在調査検討されている埋立計画地への埋立て 900 万<sup>3</sup>mを除いた土砂が 1,200 万<sup>3</sup>mとなります。</p> <p>○港湾機能の強化や維持に対応するための施設</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・コンテナ取扱機能の強化 東航路(-16m)、西航路(-14m)、中航路(-14m)、飛島ふ頭航路・泊地(-16m、-15m、-14m)、鍋田ふ頭航路・泊地(-12m)</li> <li>・完成自動車取扱機能の強化 金城ふ頭航路・泊地(-12m)、金城ふ頭泊地(-12m)</li> <li>・バルク貨物取扱機能の強化 飛島ふ頭航路・泊地(-12m)、弥富ふ頭航路・泊地(-14m)、弥富ふ頭東側泊地(-10m)、横須賀ふ頭航路・泊地(-7.5m)、北浜ふ頭航路・泊地(-14m)、南浜ふ頭泊地(-14m)、南 5 区泊地(-14m)</li> <li>・旅客船(クルーズ船)の機能強化 金城ふ頭航路・泊地(-11.5m)</li> <li>・その他 港湾機能の維持の浚渫</li> </ul> <p><sup>*</sup>名古屋港港湾計画は、我が国の基幹産業である自動車関連産業に加えて、次世代産業である航空機産業など中部地域に集積するものづくり産業の国際競争力強化と、背後に暮らす人々の生活の質の向上を支えるため、物流機能の更なる強化を図ること、そして、輸出入貨物の更なる増加や貿易額の拡大を図ることにより、我が国経済・産業の活性化と富の創出に貢献することを目的に、名古屋港管理組合により平成 30 年代後半を目標年次として策定された名古屋港の開発・利用・保全等を定めた計画です。</p>

## ＜調査に用いる文献・資料の一覧＞

項目	調査項目	内 容	文 献 名	発 行 者	発 行 年
大気質 (硫酸化合物、窒素化合物、浮遊粒子状物質、粉じん等)	硫酸化合物、窒素化合物、浮遊粒子状物質、粉じん等	二酸化窒素、窒素化合物及び浮遊粒子状物質の濃度の状況	知多市の環境 平成 24～28 年度(平成 23～27 年度実績)	知多市	平成 24～28 年
			環境概況 平成 24～28 年度(平成 23～27 年度実績)	常滑市	平成 24～28 年
		気象の状況(風向・風速)	美浜町の環境 平成 23～27 年度版	美浜町	平成 24～28 年
			あいちの環境 環境データ検索システム(平成 23～27 年度)	愛知県	—
騒音(建設機械騒音)	騒音	騒音の状況	気象統計情報 過去の気象データ検索(平成 18～27 年)	気象庁	—
悪臭	悪臭	気象の状況(風向・風速)再掲	環境概況 平成 24～28 年度(平成 23～27 年度実績)	常滑市	平成 24～28 年
水質 (水の汚れ、全窒素・全リン、溶存酸素量、土砂による水の濁り、水素イオン濃度)	水の汚れ 全窒素・全リン 溶存酸素量 土砂による水の濁り 水素イオン濃度	化学的酸素要求量の状況	あいちの環境 平成 23～27 年度公共用水域の水質等調査結果	愛知県	平成 24～28 年
			三重の環境 河川、海域(公共用水域)及び地下水調査結果(平成 23～27 年度)	三重県	平成 24～28 年
		全窒素・全リンの状況	平成 25 年度、平成 27 年度 名古屋港新土砂処分場漁業影響検討業務報告書	国土交通省中部地方整備局	平成 27～29 年
			平成 28 年度 名古屋港新土砂処分場漁業影響予測検討業務報告書		
		溶存酸素量の状況	あいちの環境 平成 23～27 年度公共用水域の水質等調査結果	愛知県	平成 24～28 年
			平成 25 年度 名古屋港新土砂処分場漁業影響検討業務報告書	国土交通省中部地方整備局	平成 27～29 年
		浮遊物質量の状況	平成 28 年度 名古屋港新土砂処分場漁業影響予測検討業務報告書		
			あいちの環境 平成 23～27 年度公共用水域の水質等調査結果	愛知県	平成 24～28 年
		水素イオン濃度の状況	平成 25 年度、平成 27 年度 名古屋港新土砂処分場漁業影響検討業務報告書	国土交通省中部地方整備局	平成 27～29 年
			平成 28 年度 名古屋港新土砂処分場漁業影響予測検討業務報告書		
		水温、塩分の状況	平成 25 年度、平成 27 年度 名古屋港新土砂処分場漁業影響検討業務報告書	国土交通省中部地方整備局	平成 27～29 年
			平成 28 年度 名古屋港新土砂処分場漁業影響予測検討業務報告書		
		流れの状況	浅海定線観測結果インデックス(平成 25～27 年度)	三重県	—
			平成 25 年度、平成 27 年度 名古屋港新土砂処分場漁業影響検討業務報告書	国土交通省中部地方整備局	平成 27～28 年
伊勢湾水質定点モニタリング速報(平成 24～28 年度)	国土交通省中部地方整備局		—		
土質(底質:粒度組成)の状況	空港島及び空港対岸部に係る平成 19 年度環境監視結果	中部国際空港(株)・愛知県	平成 20 年		
	平成 25 年度、平成 27 年度 名古屋港新土砂処分場漁業影響検討業務報告書	国土交通省中部地方整備局	平成 27～29 年		
平成 28 年度 名古屋港新土砂処分場漁業影響予測検討業務報告書					
	底質の有害物質に係る状況	平成 28 年度 名古屋港新土砂処分場漁業影響検討業務現地調査報告書	国土交通省中部地方整備局	平成 29 年	
水底の底質(有害物質、粒度組成)	有害物質	底質(粒度組成)の状況	平成 25 年度、平成 27 年度 名古屋港新土砂処分場漁業影響検討業務報告書	国土交通省中部地方整備局	平成 27～29 年
			平成 28 年度 名古屋港新土砂処分場漁業影響予測検討業務報告書		
	粒度組成	流れの状況 再掲	平成 25 年度、平成 27 年度 名古屋港新土砂処分場漁業影響検討業務報告書	国土交通省中部地方整備局	平成 27～28 年
			伊勢湾水質定点モニタリング速報(平成 24～28 年度)	国土交通省中部地方整備局	—
その他水環境に係る環境要素	流向及び流速	流れの状況 再掲	空港島及び空港対岸部に係る平成 19 年度環境監視結果	中部国際空港(株)・愛知県	平成 20 年
			平成 25 年度、平成 27 年度 名古屋港新土砂処分場漁業影響検討業務報告書	国土交通省中部地方整備局	平成 27～28 年
		水温及び塩分の状況 再掲	伊勢湾水質定点モニタリング速報(平成 24～28 年度)	国土交通省中部地方整備局	—
			空港島及び空港対岸部に係る平成 19 年度環境監視結果	中部国際空港(株)・愛知県	平成 20 年
平成 25 年度、平成 27 年度 名古屋港新土砂処分場漁業影響検討業務報告書					
	平成 28 年度 名古屋港新土砂処分場漁業影響予測検討業務報告書	国土交通省中部地方整備局	平成 27～29 年		
浅海定線観測結果インデックス(平成 25～27 年度)	三重県	—			

＜調査に用いる文献・資料の一覧＞

項目	調査項目	内 容	文 献 名	発 行 者	発 行 年
地形及び地質	重要な地形及び地質	海岸線(汀線及び干潟分布)の状況	平成 28 年度 管内海浜地形変化把握業務報告書	国土交通省中部地方整備局	平成 29 年
			空港島及び空港対岸部に係る平成 21 年度環境監視結果	中部国際空港(株)・愛知県	平成 22 年
		干潟の粒度	平成 25 年度、平成 27 年度 名古屋港新土砂処分場漁業影響検討業務報告書 平成 28 年度 名古屋港新土砂処分場漁業影響予測検討業務報告書	国土交通省中部地方整備局	平成 27～29 年
		波浪の状況	全国港湾海洋波浪情報網(ナウファス)波浪データ(2006～2015 年) 気象統計情報 過去の気象データ検索(平成 18～27 年)	国土交通省港湾局 気象庁	— —
動物	重要な種及び注目すべき生息地	鳥類に係る動物相の状況	美浜町誌	美浜町	昭和 58 年
			知多市誌	知多市	昭和 56 年
			常滑市誌	常滑市	昭和 51 年
			愛知の野鳥	愛知県農地林務部	平成 8 年
			空港島及び空港対岸部に係る環境監視結果年報(平成 17～21 年度)	中部国際空港(株)・愛知県	平成 18～22 年
			愛知県の絶滅のおそれのある野生生物 レッドデータブックあいち 2009-動物編	愛知県	平成 21 年
			第三次レッドリスト レッドリストあいち 2015	愛知県	平成 27 年
			主な海生動物(動物プランクトン、底生生物、付着生物、魚卵・稚仔魚、魚類、干潟生物、藻場生物)に係る動物相の状況	平成 25 年度、平成 27 年度 名古屋港新土砂処分場漁業影響検討業務報告書 平成 28 年度 名古屋港新土砂処分場漁業影響予測検討業務報告書 愛知県の絶滅のおそれのある野生生物 レッドデータブックあいち 2009-動物編 第三次レッドリスト レッドリストあいち 2015	国土交通省中部地方整備局 愛知県 愛知県
		主な海生動物の状況(海棲爬虫類(ウミガメ))	自然環境保全基礎調査 海域自然環境保全基礎調査 海棲動物調査報告書	環境庁自然保護局	平成 10 年
			自然環境保全基礎調査 浅海域生態系調査(ウミガメ調査)報告書	環境省自然環境局	平成 14 年
			愛知県の絶滅のおそれのある野生生物 レッドデータブックあいち 2009-動物編	愛知県	平成 21 年
			南知多ビーチランド提供資料	南知多ビーチランド	—
		主な海生動物の状況(海棲哺乳類(スナメリ))	自然環境保全基礎調査 海域自然環境保全基礎調査 海棲動物調査報告書	環境庁自然保護局	平成 10 年
			自然環境保全基礎調査 海域自然環境保全基礎調査 海棲動物調査(スナメリ生息調査)報告書	環境省自然環境局	平成 13～14 年
			愛知県の絶滅のおそれのある野生生物 レッドデータブックあいち 2009-動物編	愛知県	平成 21 年
		動物の重要な種の分布、生息の状況及び生息環境の状況	鳥類に係る動物相の状況、主な海生生物に係る動物相の状況で用いる文献に同じ。	—	—
注目すべき生息地の分布並びに当該生息地が注目される理由である動物の種の生息状況及び生息環境の状況	鳥類に係る動物相の状況、主な海生生物に係る動物相の状況で用いる文献に同じ。	—	—		
植物	重要な種及び群落	海草類その他主な植物(植物プランクトン、海藻類、付着生物)に係る植物相及び食性の状況	平成 25 年度、平成 27 年度 名古屋港新土砂処分場漁業影響検討業務報告書 平成 28 年度 名古屋港新土砂処分場漁業影響予測検討業務報告書	国土交通省中部地方整備局	平成 27～29 年
			愛知県の絶滅のおそれのある野生生物 レッドデータブックあいち 2009-動物編	愛知県	平成 21 年
		植物の重要な種及び群落の分布、生育の状況及び生育環境の状況	第三次レッドリスト レッドリストあいち 2015	愛知県	平成 27 年
生態系	地域を特徴付ける生態系	動植物その他の自然環境に係る概況 複数の注目種等の生態、他の動植物との関係又は生息環境若しくは生育環境の状況	※動物、植物に同じ	—	—

＜調査に用いる文献・資料の一覧＞

項 目	調査項目	内 容	文 献 名	発 行 者	発 行 年
景観	主要な眺望点及び 景観資源並びに 主要な眺望景観	主要な眺望点の状況 景観資源の状況 主要な眺望点景観の状況	全国観光情報検索サイト 旅そうだん	(公社)日本観光協会	—
			愛知県観光ガイド	愛知県観光協会	—
			美しい愛知づくり景観資源 600 選	愛知県	—
			スポーツ・公園	常滑市	—
			観光・レジャー	常滑市	—
			観光スポット	美浜町	—
人と自然との触れ合 いの活動の場	主要な人と自然と の触れ合いの活 動の場	人と自然との触れ合いの活動 の場の概況 主要な人と自然との触れ合い の活動の場の分布、利用の状 況及び利用環境の状況	全国観光情報検索サイト 旅そうだん	(公社)日本観光協会	—
			愛知県観光ガイド	(一社)愛知県観光協会	—
			常滑市観光スポット	常滑市観光協会	—
			いきいきタウン知多福祉ガイド	知多市	—
			観光スポット	美浜町	—

<水底質の調査地域と調査手法>

①水質（化学的酸素要求量、全窒素、全磷）

対象事業実施区域及びその周辺の海域の水質（化学的酸素要求量、全窒素、全磷）の状況を把握するための調査であり、調査地点は図 1 のとおり伊勢湾内の 34 地点です。

調査内容は表 1、調査実施方法は図 2 のとおりです。

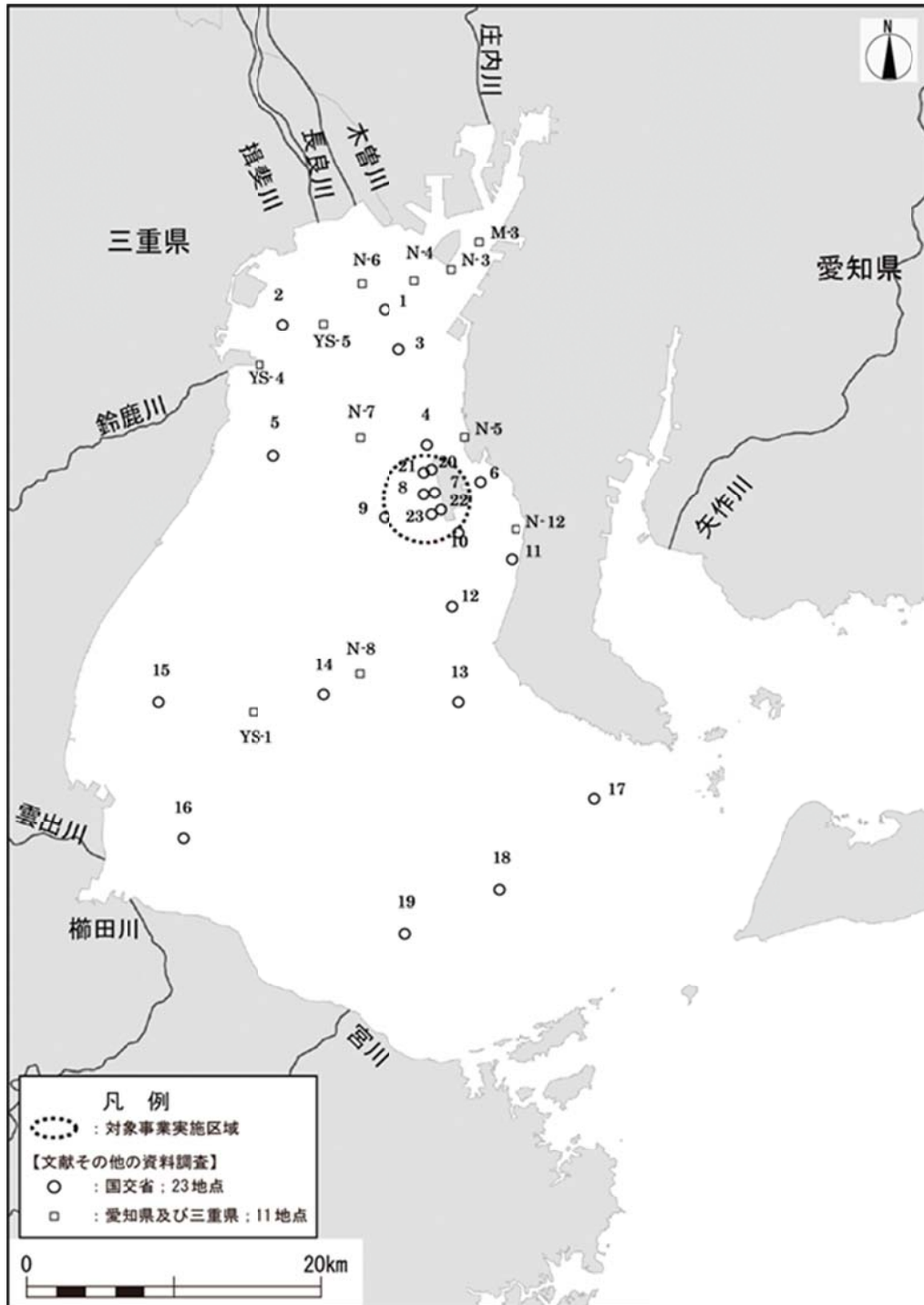


図 1 水質（化学的酸素要求量、全窒素、全磷）の調査地点  
 (方法書 232 ページ図 5.2-4(1)、236 ページ図 5.2-5 に一部加筆)

表 1 水質（化学的酸素要求量、全窒素、全燐）の調査内容

調査名	調査機関／調査手法	調査地点	調査時期等
化学的酸素 要求量、 全窒素、全燐	国交省／ 調査方法：バンドーン採水器を用 いて試料を採取 分析方法：「水質汚濁に係る環境 基準について」（昭和 46 年環境 庁告示第 59 号）に定められた方 法	平成 26 年度 ・調査地点：23 地点 ・採水層：上層（0.5m）、中層（水深 1/2）、 下層（海底上 0.5m）	平成 26 年度 各月
	”	平成 27 年度 ・調査地点：23 地点 ・採水層：上層（0.5m）、中層（水深 1/2）、 下層（海底上 0.5m）	平成 27 年度 各月
	”	平成 28 年度 ・調査地点：9 地点 ・採水層：上層（0.5m）、中層（水深 1/2）、 下層（海底上 0.5m）	平成 28 年度 5 月 1 回、8 月 2 回、 10 月 1 回
	愛知県・三重県（公共用水域）／ 「水質汚濁に係る環境基準につ いて」（昭和 46 年環境庁告示第 59 号）に定められた方法	・調査地点：11 地点 （愛知県 9 地点、三重県 3 地点） ・採水層：上層（海表面）、中層（2m）	入手可能な 5 年間 程度 各月

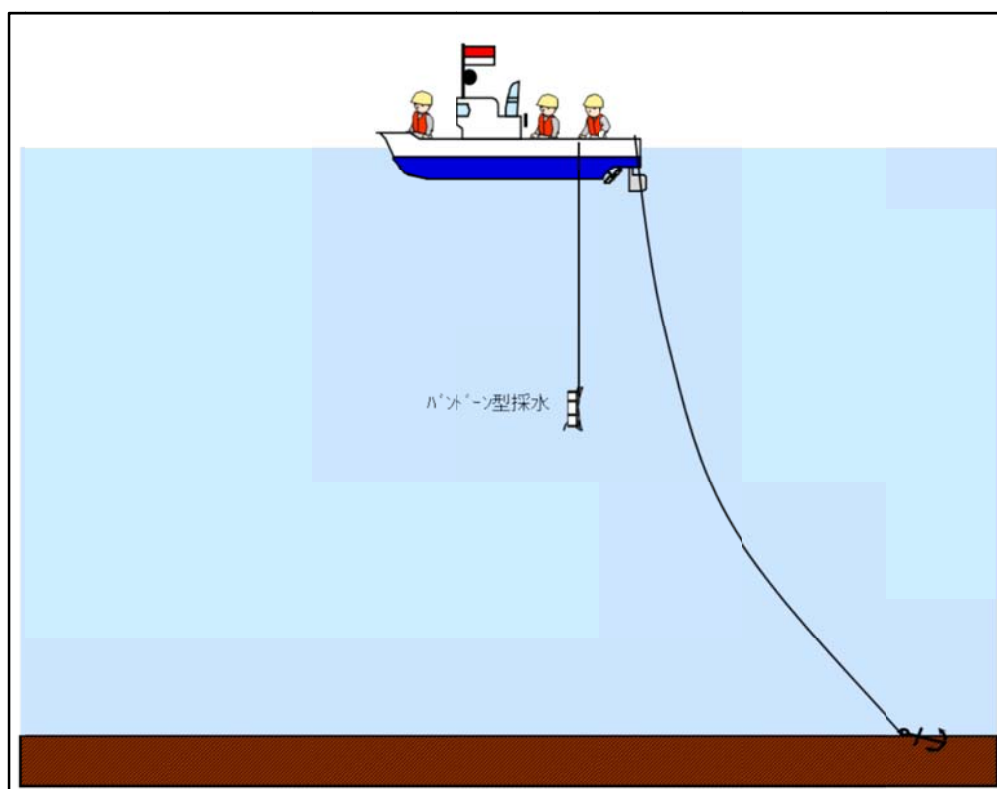


図 2 調査実施方法（水質：化学的酸素要求量、全窒素、全燐）

【文献名】

- 「平成 25 年度 名古屋港新土砂処分場漁業影響検討業務報告書」（国土交通省中部地方整備局 平成 27 年）
- 「平成 27 年度 名古屋港新土砂処分場漁業影響検討業務報告書」（国土交通省中部地方整備局 平成 28 年）
- 「平成 28 年度 名古屋港新土砂処分場漁業影響予測検討業務報告書」（国土交通省中部地方整備局 平成 29 年）
- 「あいちの環境 平成 24～27 年度公共用水域の水質等調査結果」（愛知県）
- 「三重の環境 河川、海域（公共用水域）及び地下水調査結果（平成 23～27 年度）」（三重県）

②水質（溶存酸素量、水温、塩分）

対象事業実施区域及びその周辺の海域の水質（溶存酸素量、水温、塩分）の状況を把握するための調査であり、調査地点は図 3 のとおり伊勢湾内の 39 地点です。

調査内容は表 2、調査実施方法は図 4 のとおりです。

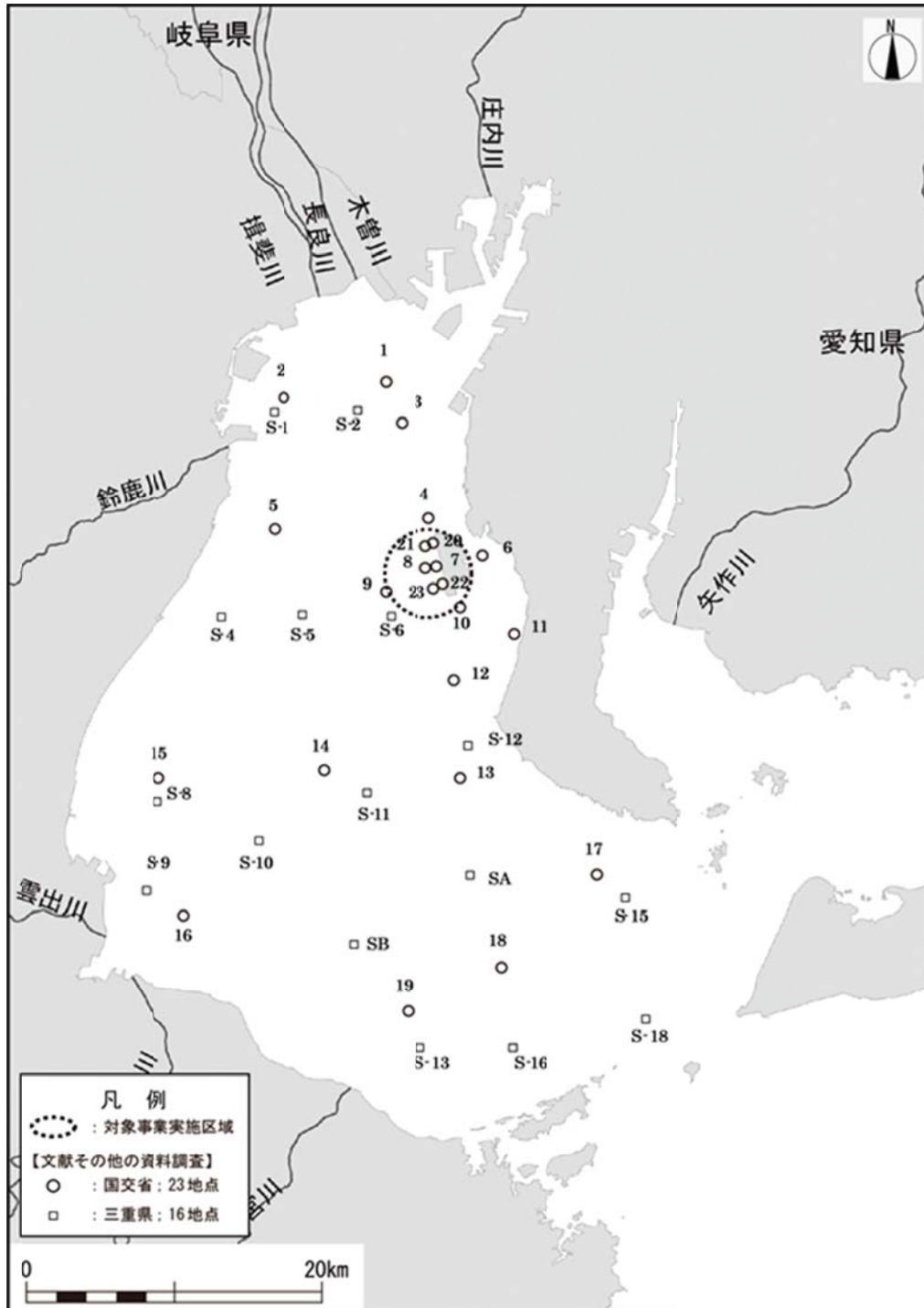


図 3 水質（溶存酸素量、水温、塩分）の調査地点  
(方法書 233 ページ図 5.2-4 (2)、239 ページ図 5-2-6 に一部加筆)



表 2 水質（溶存酸素量、水温、塩分）の調査内容

調査名	調査機関／調査手法	調査地点	調査時期等
溶存酸素量、 水温、塩分	国交省／ 多項目水質計による測定	平成 26～28 年度 ・調査地点：23 地点 ・取得層：0.5m 間隔	平成 26～28 年度 各月
	三重県／ 多項目水質計による測定	・調査地点：16 地点 ・取得層：0、2、5、10m 以降は 10m 間隔、海底上 1m	入手可能な 5 年間程度

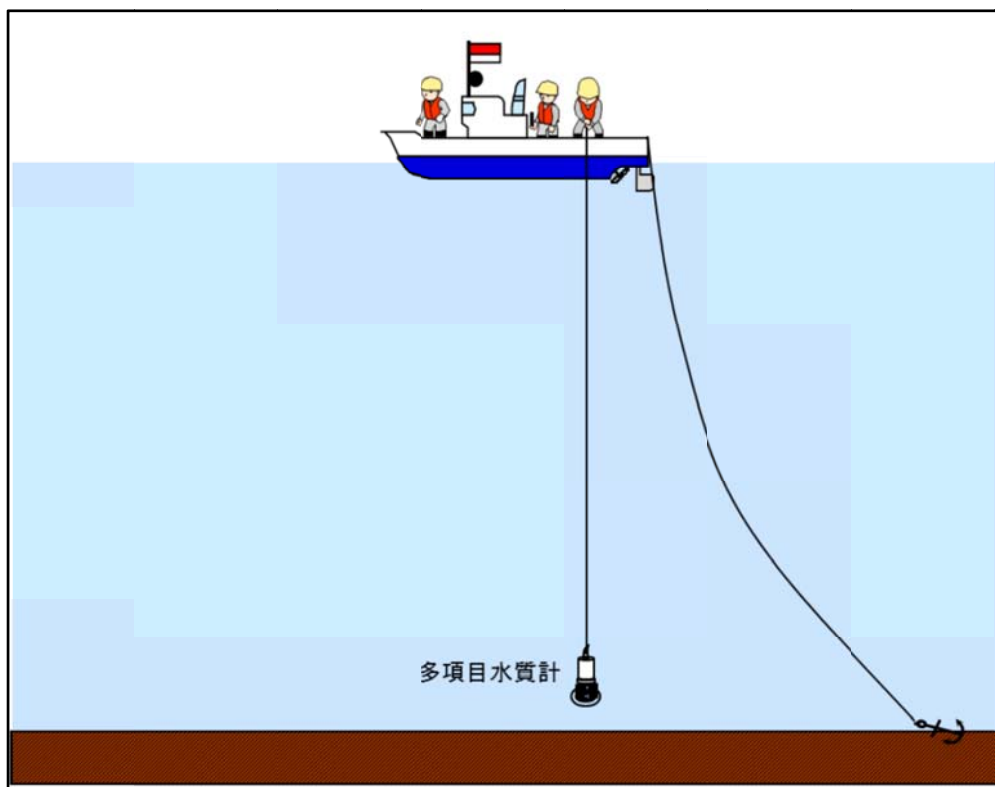


図 4 調査実施方法（水質：溶存酸素量、水温、塩分）

【文献名】

- 「平成 25 年度 名古屋港新土砂処分場漁業影響検討業務報告書」（国土交通省中部地方整備局 平成 27 年）
- 「平成 27 年度 名古屋港新土砂処分場漁業影響検討業務報告書」（国土交通省中部地方整備局 平成 28 年）
- 「平成 28 年度 名古屋港新土砂処分場漁業影響予測検討業務報告書」（国土交通省中部地方整備局 平成 29 年）
- 「浅海定線観測結果インデックス（平成 23～27 年度）」（三重県）

③水質（土砂による水の濁り）

対象事業実施区域及びその近傍の海域の水質（土砂による水の濁り）の状況を把握するための調査であり、調査地点は図 5 のとおり中部国際空港島周辺の 7 地点です。

調査内容は表 3、調査実施方法は図 6 のとおりです。

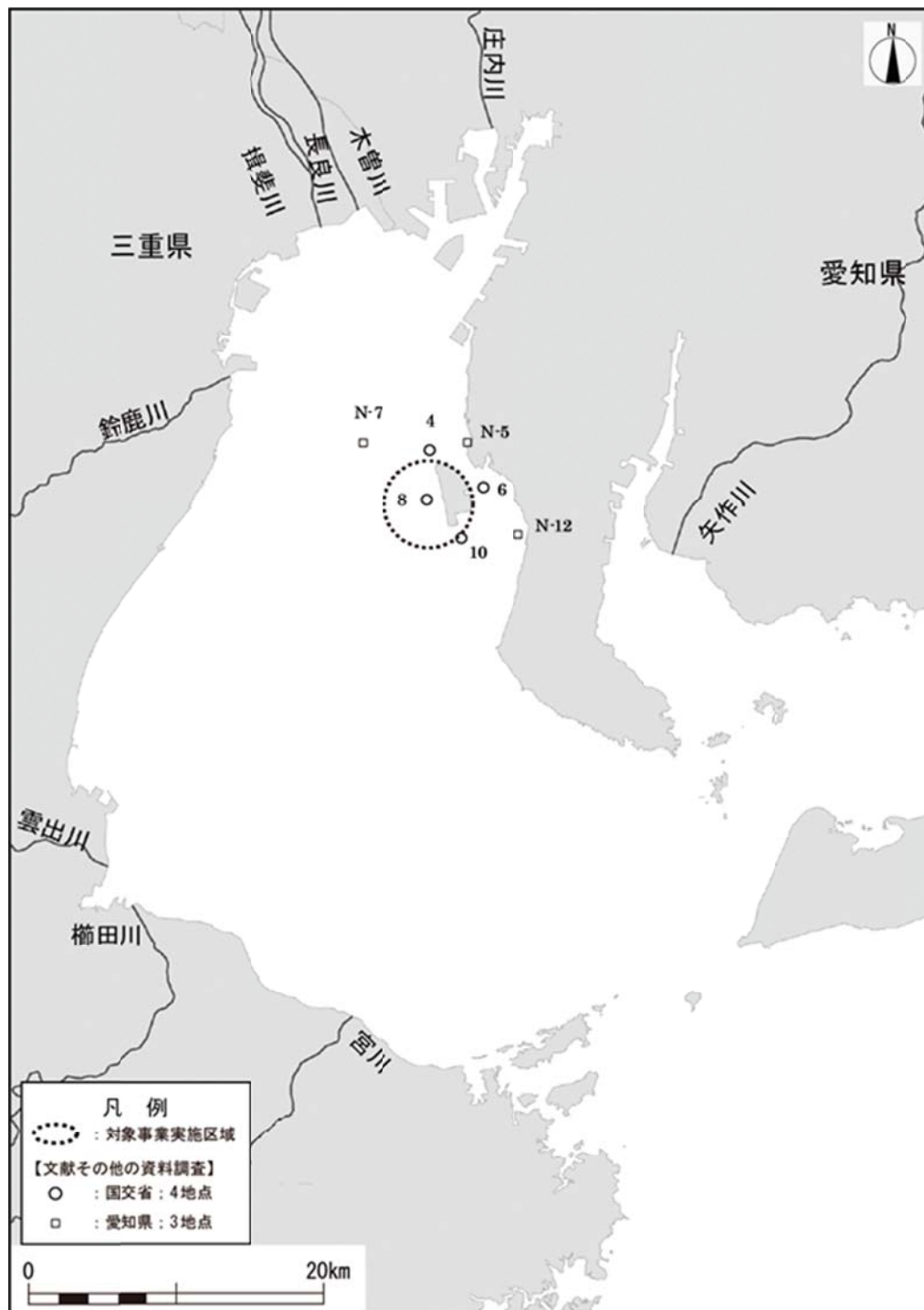


図 5 水質（土砂による水の濁り）の調査地点（方法書 242 ページ図 5.2-7 に一部加筆）

表 3 水質（土砂による水の濁り）の調査内容

調査名	調査機関／調査手法	調査地点	調査時期等
浮遊物質量	国交省／ 調査方法：バンドーン採水器 を用いて試料を採取。 分析方法：JIS K 0102 14.1	平成 26 年度 ・調査地点：4 地点 ・採水層：上層（0.5m）、中層（水深 1/2）、下層（海底上 0.5m）	平成 26 年度 四季（5、8、11、2 月）
	〃	平成 28 年度 ・調査地点：4 地点 ・採水層：上層（0.5m）、中層（水深 1/2）、下層（海底上 0.5m）	平成 28 年度 5 月 1 回、8 月 2 回、10 月 1 回
	愛知県（公共用水域）／ 分析方法：「水質汚濁に係る 環境基準について」（昭和 46 年環境庁告示第 59 号）に定め られた方法	・調査地点：3 地点 ・採水層：上層（海表面）、中層（2m）	入手可能な 5 年間程度

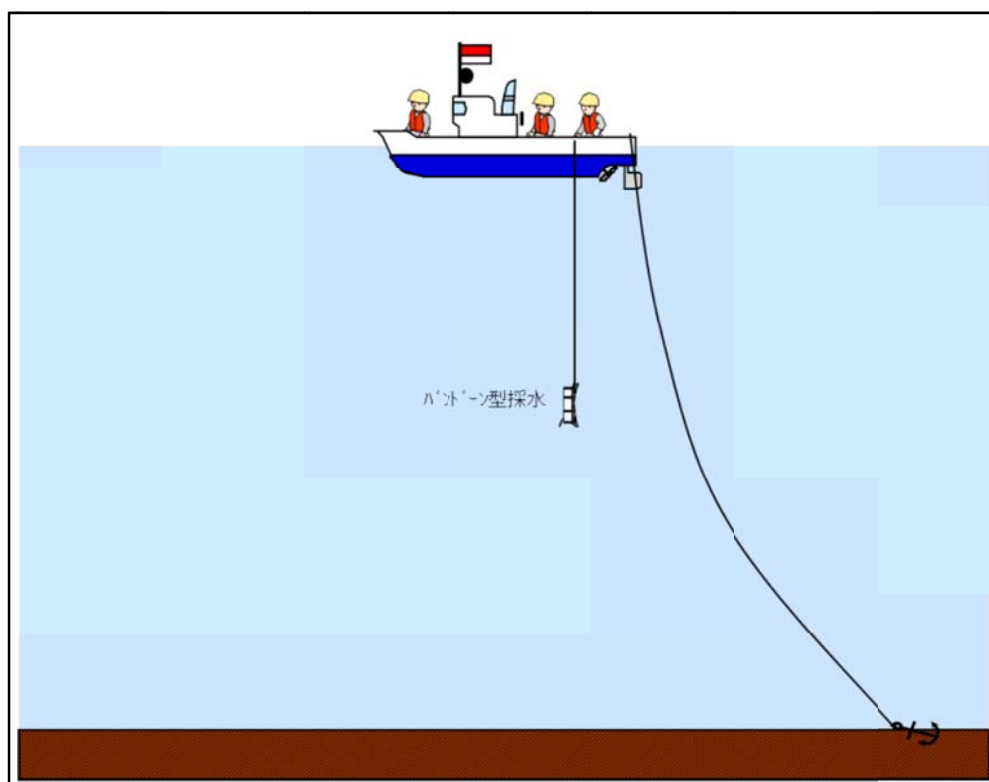


図 6 調査実施方法（水質：土砂による水の濁り）

【文献名】

- 「平成 25 年度 名古屋港新土砂処分場漁業影響検討業務報告書」（国土交通省中部地方整備局 平成 27 年）
- 「平成 28 年度 名古屋港新土砂処分場漁業影響予測検討業務報告書」（国土交通省中部地方整備局 平成 29 年）
- 「あいちの環境 平成 24～27 年度公共用水域の水質等調査結果」（愛知県）

④水質（水素イオン濃度）

対象事業実施区域及びその近傍の海域の水質（水素イオン濃度）の状況を把握するための調査であり、調査地点は図 7 のとおり中部国際空港島及び周辺海域の 15 地点です。

調査内容は表 4、調査実施方法は図 8 のとおりです。

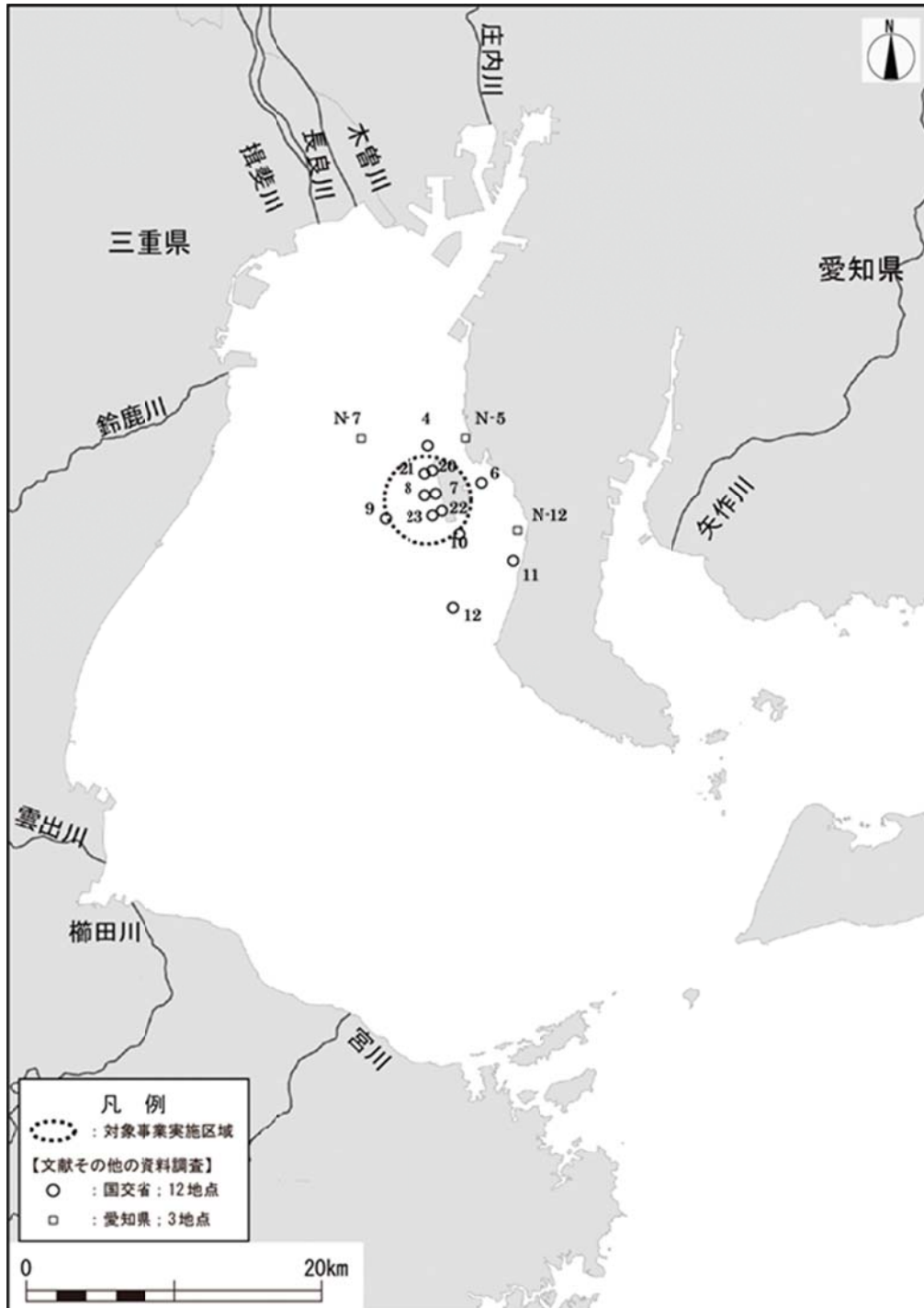


図 7 水質（水素イオン濃度）の調査地点（方法書 244 ページ図 5.2-8 に一部加筆）

表 4 水質（水素イオン濃度）の調査内容

調査名	調査機関／調査手法	調査地点	調査時期等
水素イオン濃度	国交省／ 調査方法：バンドーン採水器 を用いて試料を採取 分析方法：「水質汚濁に係る 環境基準について」（昭和 46 年環境庁告示第 59 号）に定 められた方法	平成 26、27 年度 ・調査地点：12 地点 ・採水層：上層（0.5m）、中層（水 深 1/2）、下層（海底上 0.5m）	平成 26、27 年度 各月
	”	平成 28 年度 ・調査地点：8 地点 ・採水層：上層（0.5m）、中層（水 深 1/2）、下層（海底上 0.5m）	平成 28 年度 5 月 1 回、8 月 2 回、10 月 1 回
	愛知県（公共用水域）／ 分析方法：「水質汚濁に係る 環境基準について」（昭和 46 年環境庁告示第 59 号）に定 められた方法	・調査地点：3 地点 ・採水層：上層（海表面）、中層（2m）	入手可能な 5 年間程度

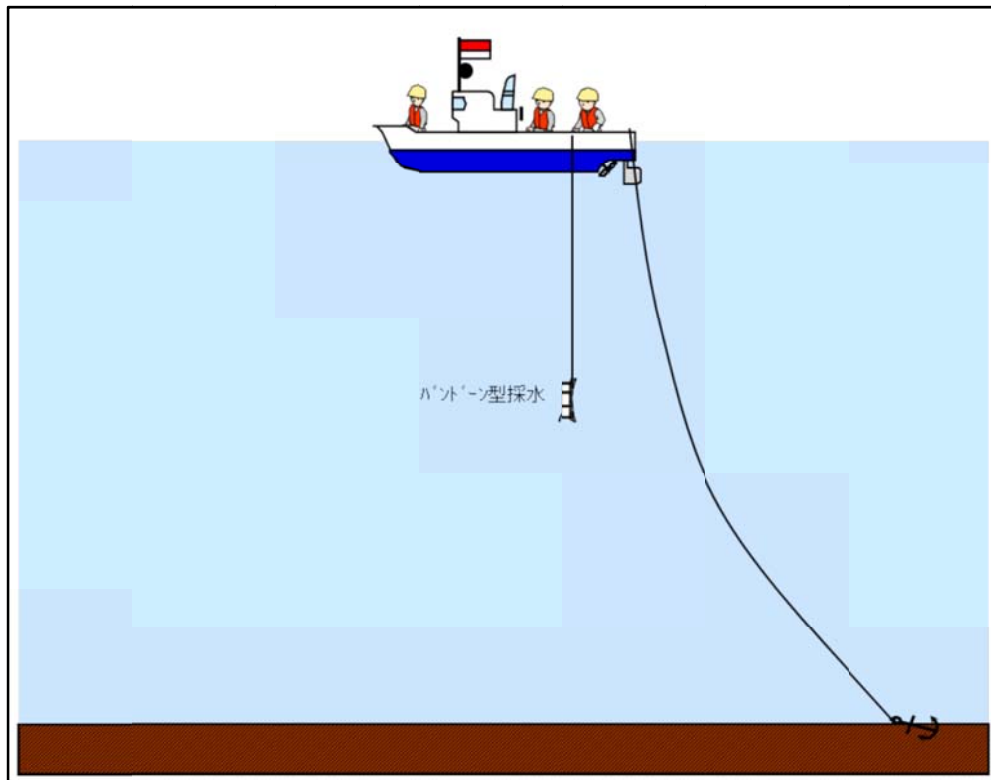


図 8 調査実施方法（水質：水素イオン濃度）

【文献名】

- 「平成 25 年度 名古屋港新土砂処分場漁業影響検討業務報告書」（国土交通省中部地方整備局 平成 27 年）
- 「平成 27 年度 名古屋港新土砂処分場漁業影響検討業務報告書」（国土交通省中部地方整備局 平成 28 年）
- 「平成 28 年度 名古屋港新土砂処分場漁業影響予測検討業務報告書」（国土交通省中部地方整備局 平成 29 年）
- 「あいちの環境 平成 24～27 年度公共用水域の水質等調査結果」（愛知県）

⑤水底の底質（有害物質）

対象事業実施区域及びその周辺の海域の水底の底質（有害物質）の状況を把握するための調査であり、調査地点は図 9 のとおり対象事業実施区域内の 4 地点です。

調査内容は表 5、調査実施方法は図 10 のとおりです。



図 9 水底の底質（有害物質）の調査地点（方法書 246 ページ図 5.2-9）

表 5 水底の底質（有害物質）の調査内容

調査名	調査機関／調査手法	調査地点	調査時期等
有害物質	国交省／ 調査方法：スミス・マッキンタイヤー型採泥器 による底質の採取 分析方法：海洋汚染等及び海上災害の防止に 関する法律施行令等に規定する有害物質の測定 の方法	平成 28 年度 ・調査地点：4 地点	平成 28 年度 2 月

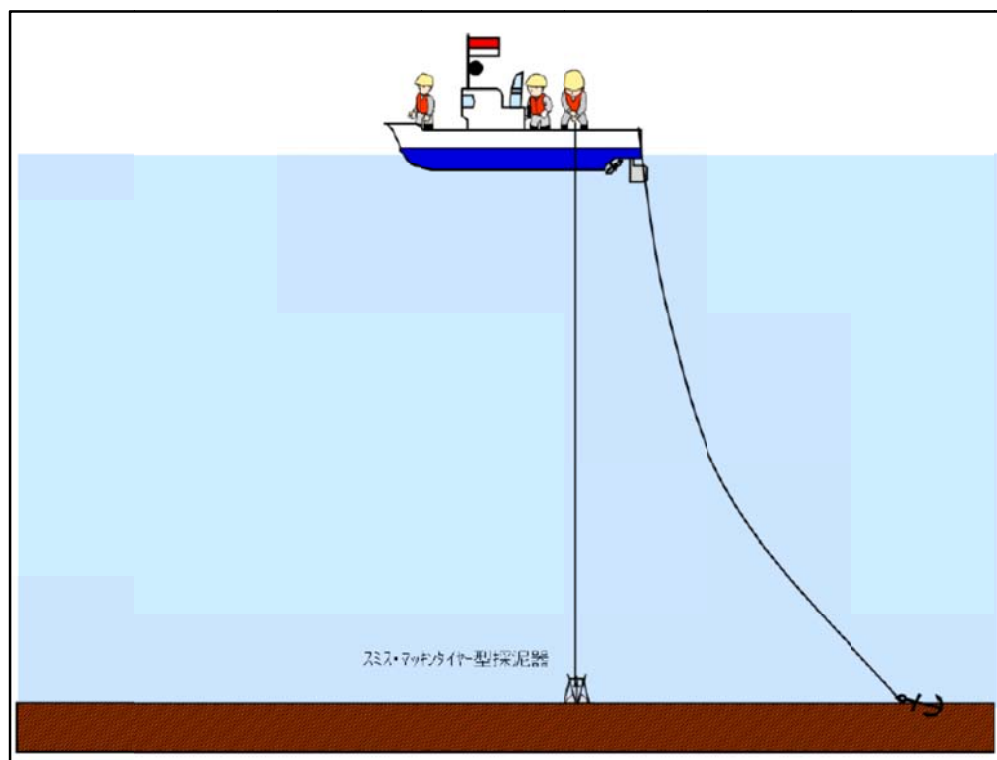


図 10 調査実施方法（水底の底質：有害物質）

【文献名】

「平成 28 年度 名古屋港新土砂処分場漁業影響予測検討業務報告書」（国土交通省中部地方整備局 平成 29 年）

⑥水底の底質（粒度組成）

対象事業実施区域及びその周辺の水底の底質（粒度組成）の状況を把握するための調査であり、調査地点は図 11 のとおり伊勢湾内の 12 地点です。

調査内容は表 6、調査実施方法は図 12 のとおりです。



図 11 水底の底質（粒度組成）の調査地点（方法書 248 ページ図 5. 2-10 に一部加筆）



表 6 水底の底質（粒度組成）の調査内容

調査名	調査機関／調査手法	調査地点	調査時期等
粒度組成	国交省／ 調査方法：スミスマッキンタイヤー型採泥器 による底質の採取 分析方法：JIS A 1204	平成 26～28 年度 ・調査地点：12 地点	平成 26、27 年度：4 季（5、 8、11、1 又は 2 月） 平成 28 年度：8、2 月

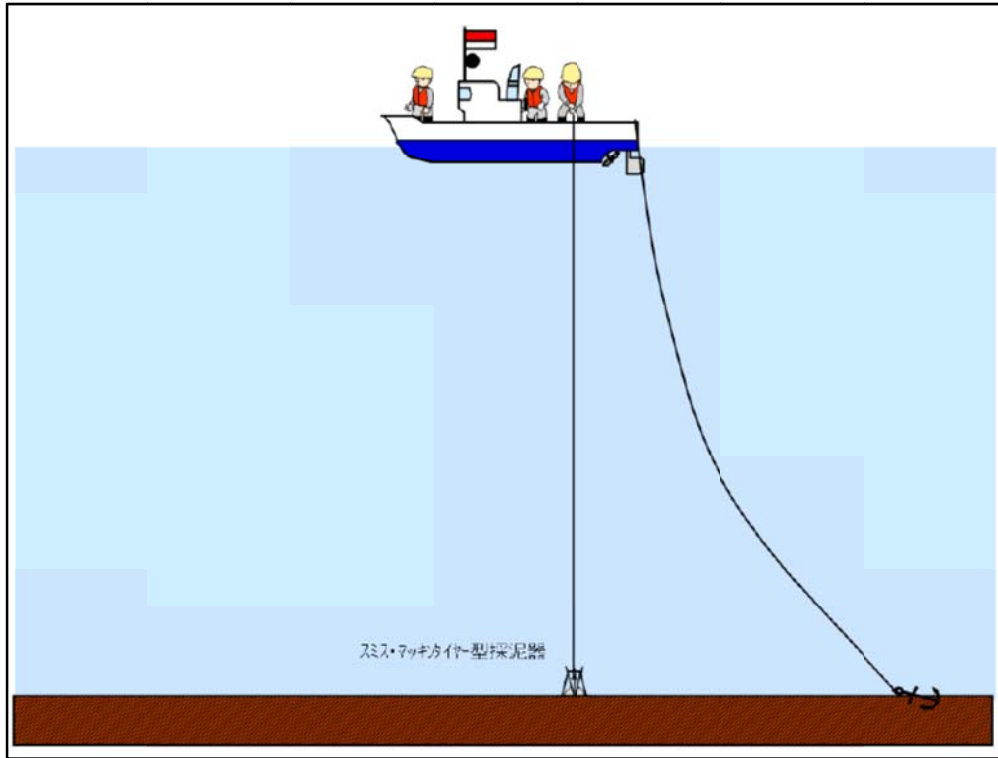


図 12 調査実施方法（水底の底質：粒度組成）

【文献名】

- 「平成 25 年度 名古屋港新土砂処分場漁業影響検討業務報告書」（国土交通省中部地方整備局 平成 27 年）
- 「平成 27 年度 名古屋港新土砂処分場漁業影響検討業務報告書」（国土交通省中部地方整備局 平成 28 年）
- 「平成 28 年度 名古屋港新土砂処分場漁業影響予測検討業務報告書」（国土交通省中部地方整備局 平成 29 年）

⑦ 流向及び流速

対象事業実施区域及びその周辺の海域の流向及び流速の状況を把握するための調査であり、調査地点は図 13 のとおり伊勢湾内の地点です。

調査内容は表 77、調査実施方法は図 14 のとおりです。

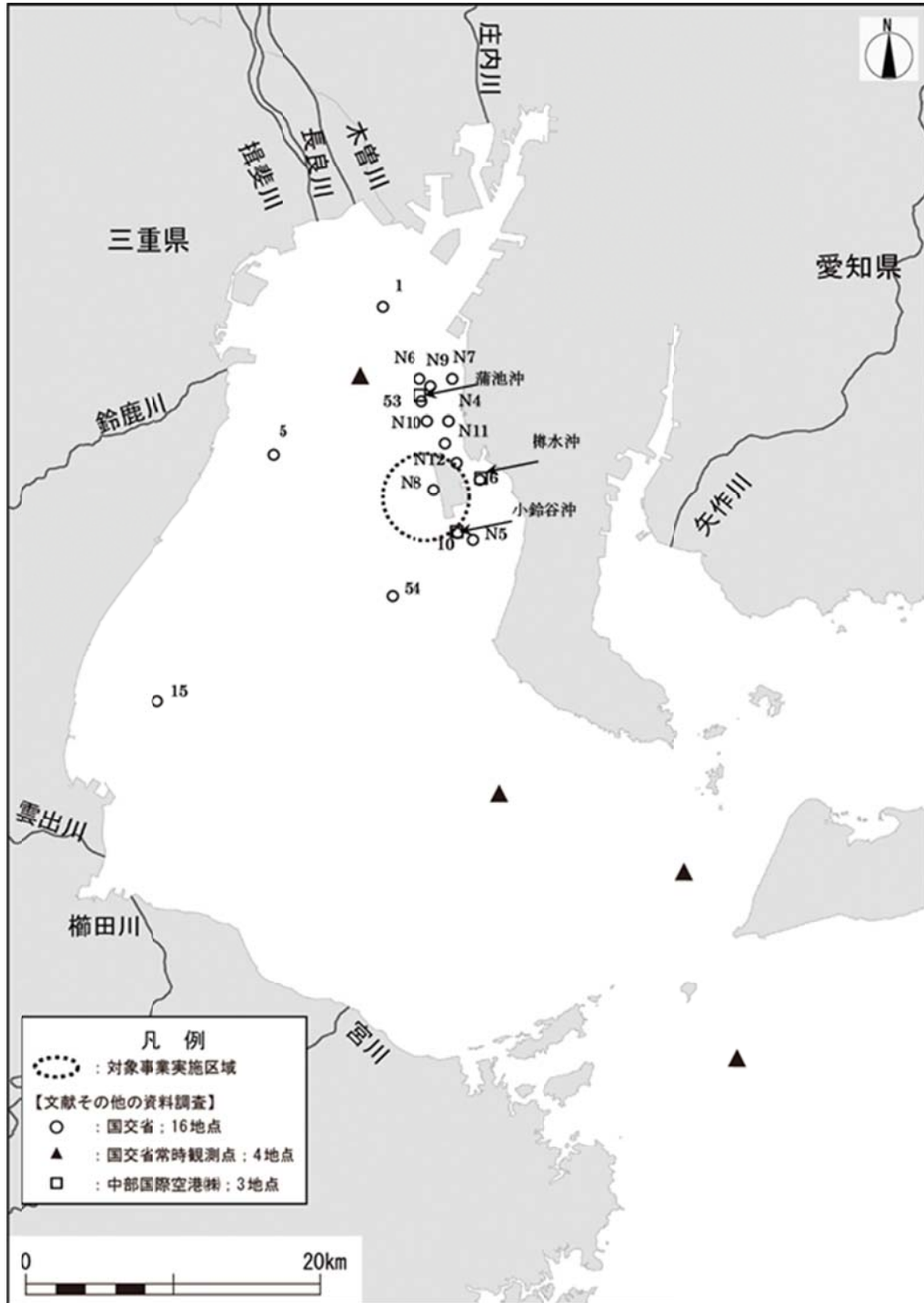


図 133 流向及び流速の調査地点（方法書 251 ページ図 5.2-11 に一部加筆）

表 7 流向及び流速の調査内容

調査名	調査機関／調査手法	調査地点	調査時期等
流向及び流速	国交省／ 電磁流速計 (COMPACT-EM 又は INFINITY-EM) による流速の測定	平成 26 年度 ・調査地点：7 地点 (No.1、5、6、10、15、53、54) ・取得層：3 層	4 季 (5、8、11、1 又は 2 月) 30 日間連続
	”	平成 26 年度 ・調査地点：4 地点 (N4、N5、N6、N7) ・取得層 N4、N5、N7：海底上 0.5m の 1 層 N6：海底上 0.5m 及び海面下 5m の 2 層	7～9 月 90 日間連続 (2,160 時間)
	”	平成 27 年度 ・調査地点：1 地点 (N8) ・取得層：2 層 (海面下 2m、海底上 0.5m)	4 季 (5、8、11、2 月) 30 日間連続 (720 時間)
	”	平成 27 年度 ・調査地点：5 地点 (N4、N9、N10、N11、N12) ・取得層：2 層 (海面下 1m、海底上 0.5m)	7～9 月 40 日間連続 (960 時間)
	国交省／ 常時観測点による流速の測定	・調査地点：4 地点 湾奥：1 層 湾央：2m 間隔 (15 層) 中山水道：上層 (約 1.4m)、中層 (約 8.2m)、 下層 (約 12.4m) 湾口：上層 (約 1m)、中層 (約 11.8m)、 下層 (約 23.2m)	常時観測
	中部国際空港 (株)	・調査地点：3 地点 ・取得層：2 層 (上層、底層)	平成 17 年度～19 年度 4 季 30 日間連続

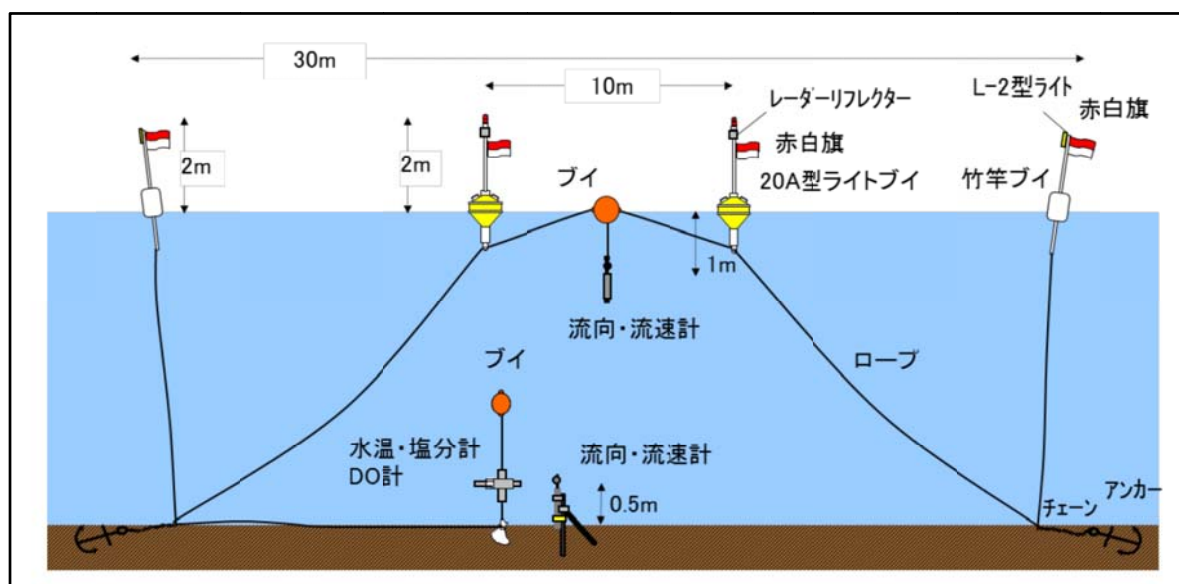


図 14 調査実施方法 (流向及び流速)

【文献名】

- 「平成 25 年度 名古屋港新土砂処分場漁業影響検討業務報告書」(国土交通省中部地方整備局 平成 27 年)
- 「平成 27 年度 名古屋港新土砂処分場漁業影響検討業務報告書」(国土交通省中部地方整備局 平成 28 年)
- 「伊勢湾水質定点モニタリング速報」(伊勢湾環境データベース)
- 「空港島及び空港対岸部に係る平成 19 年度環境監視結果 速報 (概要版)」(中部国際空港(株)・愛知県 平成 20 年)

<動物の調査地域と調査手法>

①鳥類

対象事業実施区域及びその周辺の鳥類の状況を把握するための調査であり、調査地点は図 1 のとおり対象事業実施区域を含む知多半島西岸（知多市～美浜町）です。文献その他の資料調査及び現地調査を行います。

調査内容は表 1 のとおりです。

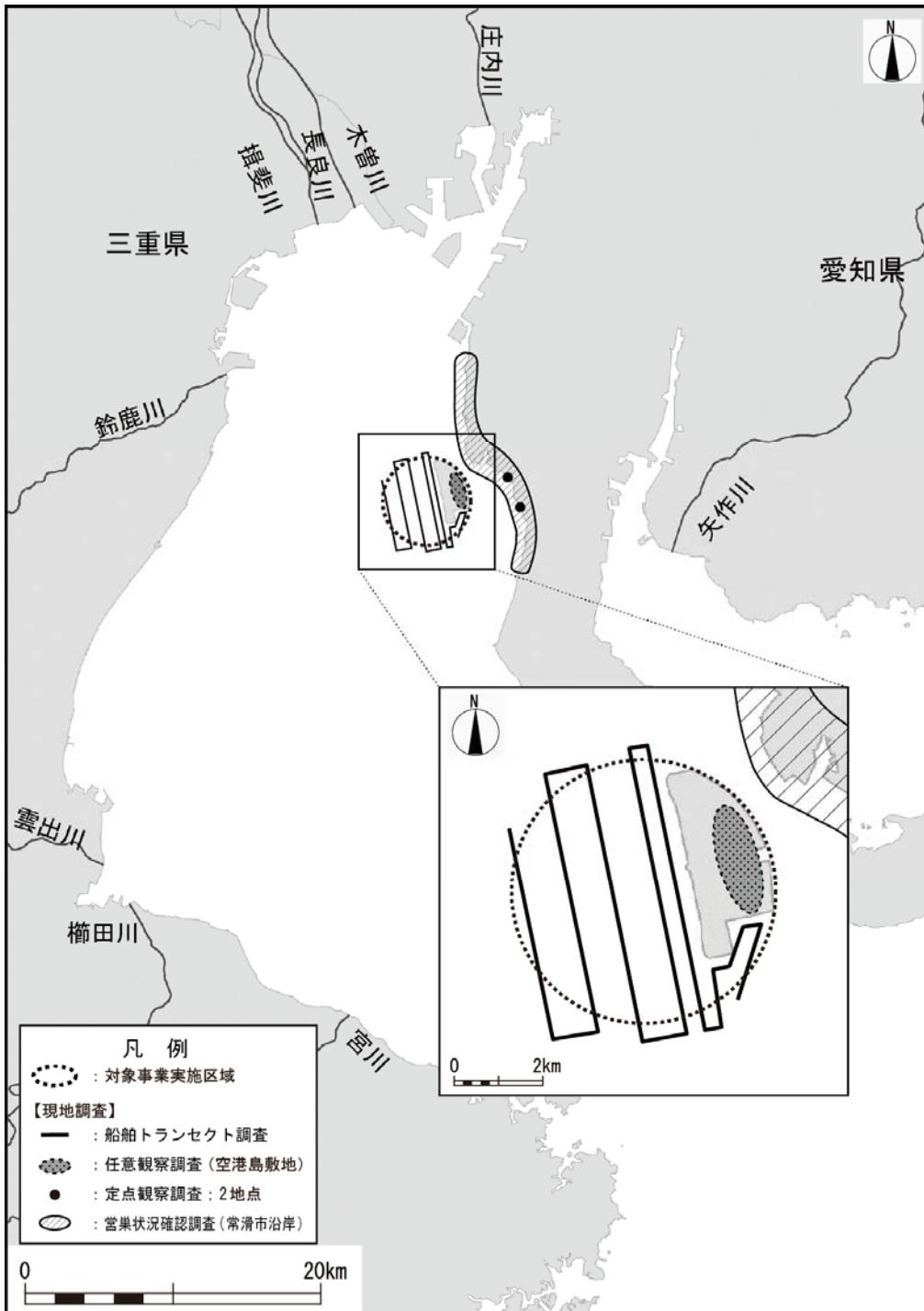


図 1 鳥類の調査地点 (方法書 259 ページ図 5.2-13(1))

表 1 鳥類の調査内容

調査名	調査機関／調査手法	調査地点	調査時期等
鳥類	国交省／船舶トランセクト調査 <sup>1</sup>	対象事業実施区域の総延長39km 測線	平成 28 年度 5、8、10、12、1、3 月の 6 回 1 回あたりの調査で午前、午後 の 2 回実施
	国交省／任意観察調査 <sup>2</sup>	空港島敷地内(滑走路等の立 入禁止箇所は除く)	”
	国交省／定点観察調査 <sup>3</sup>	空港背後の干潟 2 点	平成 28 年度 5、8、10、12、1、3 月の 6 回 1 回あたりの調査で 1 時間 1 回 の観察とし 8 回程度とする。
	国交省／踏査による営巣 調査 <sup>4</sup>	常滑市沿岸	平成 28 年度 5 月 1 回

- 注：1. 船舶の両舷でそれぞれ観測員を配置し、船速 5～7 ノットの船速で進みながら双眼鏡（倍率 8～10 倍程度）による目視観察
2. 空港島の敷地内を踏査しながら双眼鏡（倍率 8～10 倍程度）及び望遠鏡（倍率 20～60 倍程度）による目視観察。
3. 干潟定点での双眼鏡（倍率 8～10 倍程度）及び望遠鏡（倍率 20～60 倍程度）による目視観察
4. 常滑市沿岸を踏査しコアジサシ等の営巣可能な場所を双眼鏡（倍率 8～10 倍程度）及び望遠鏡（倍率 20～60 倍程度）により目視観察（1 日間）

## ②海生動物

### 【動物プランクトン】

対象事業実施区域及びその周辺の海域の動物プランクトンの状況を把握するための調査であり、調査地点は図 2 のとおり伊勢湾内の 23 地点です。

調査内容は表 2、調査実施方法は図 3 のとおりです。

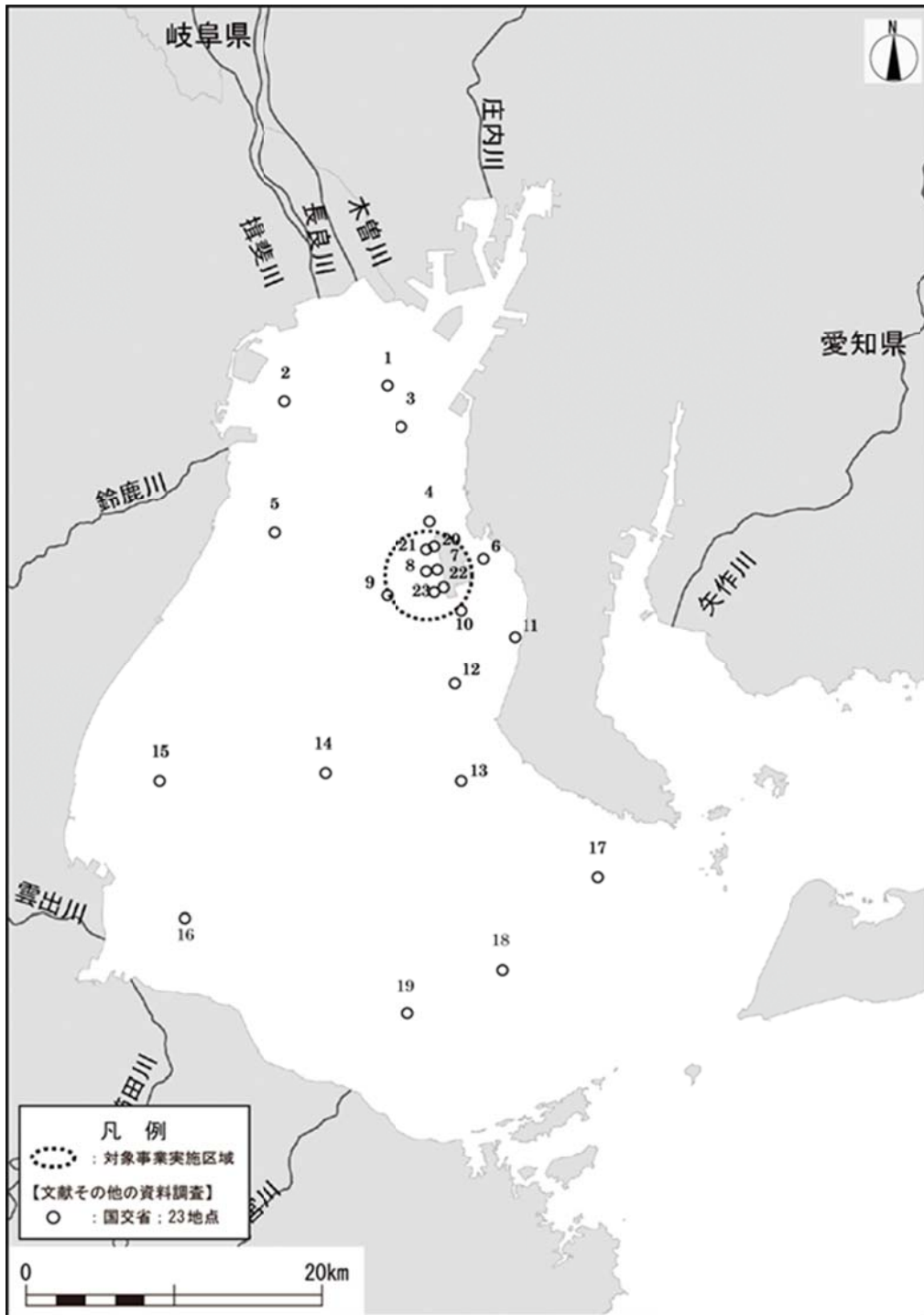


図 2 動物プランクトンの調査地点 (方法書 260 ページ図 5.2-13(2) に一部加筆)

表 2 海生動物（動物プランクトン）の調査内容

調査名	調査手法	調査地点	調査時期等
動物プランクトン	北原閉鎖式定量ネット（NXX13（目合い100 $\mu$ m））による鉛直曳、3層曳により試料を採取、同定分析	平成26年度 ・調査地点：23地点（No.1～23） ・採取層 鉛直曳（0～海底上1m）：No.2～8、10～12、15、17、19～23 3層曳（上層0～5m、中層5～10m、下層10～海底上1m）：No.1、9、13、14、16、18	平成26年度 各月
	〃	平成27年度 ・調査地点：23地点（No.1～23） ・採取層 鉛直曳（17地点）：No.2～7、9～12、15、17、19～23 3層曳（6地点）：No.1、8、13、14、16、18	平成27年度 各月
	〃	平成28年度 ・調査地点：23地点 ・採取層 鉛直曳（23地点）：No.1～23 3層曳（9地点）：No.1、4、6～12	平成28年度 No.1～23：各月 No.1、4、6～12は8月1回、11月1回、2月1回の3回

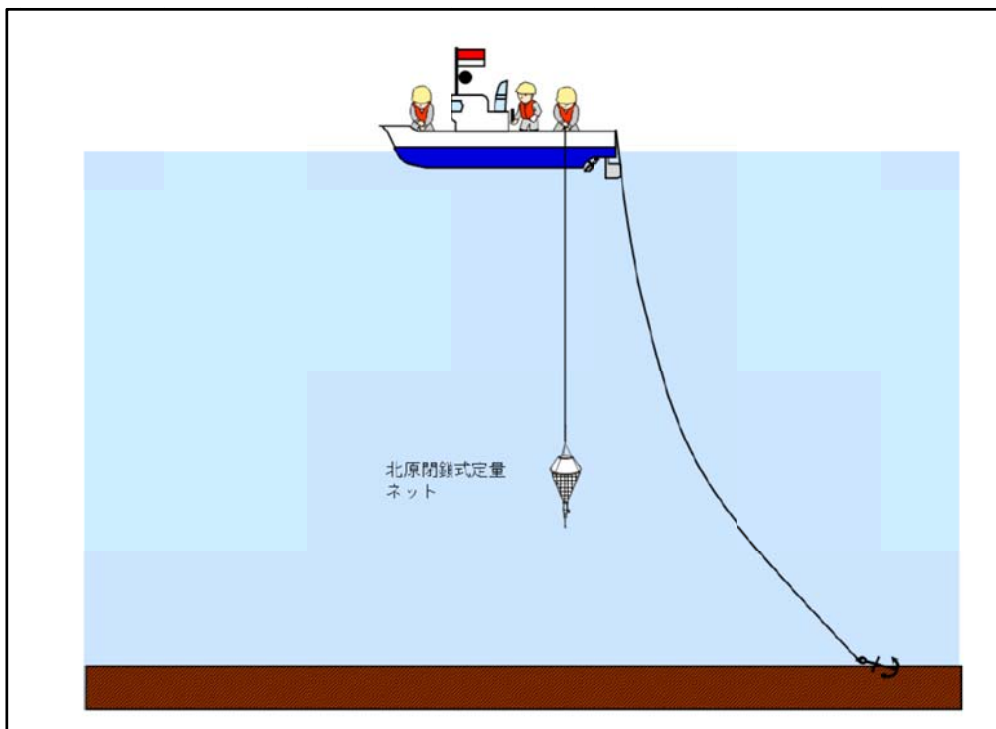


図 3 調査実施方法（動物プランクトン）

【文献名】

- 「平成25年度 名古屋港新土砂処分場漁業影響検討業務報告書」（国土交通省中部地方整備局 平成27年）
- 「平成27年度 名古屋港新土砂処分場漁業影響検討業務報告書」（国土交通省中部地方整備局 平成28年）
- 「平成28年度 名古屋港新土砂処分場漁業影響予測検討業務報告書」（国土交通省中部地方整備局 平成29年）

【底生生物】

対象事業実施区域及びその周辺の海域の底生生物の状況を把握するための調査であり、調査地点は図 4 のとおり伊勢湾内の 24 地点です。

調査内容は表 3、調査実施方法は図 5 のとおりです。

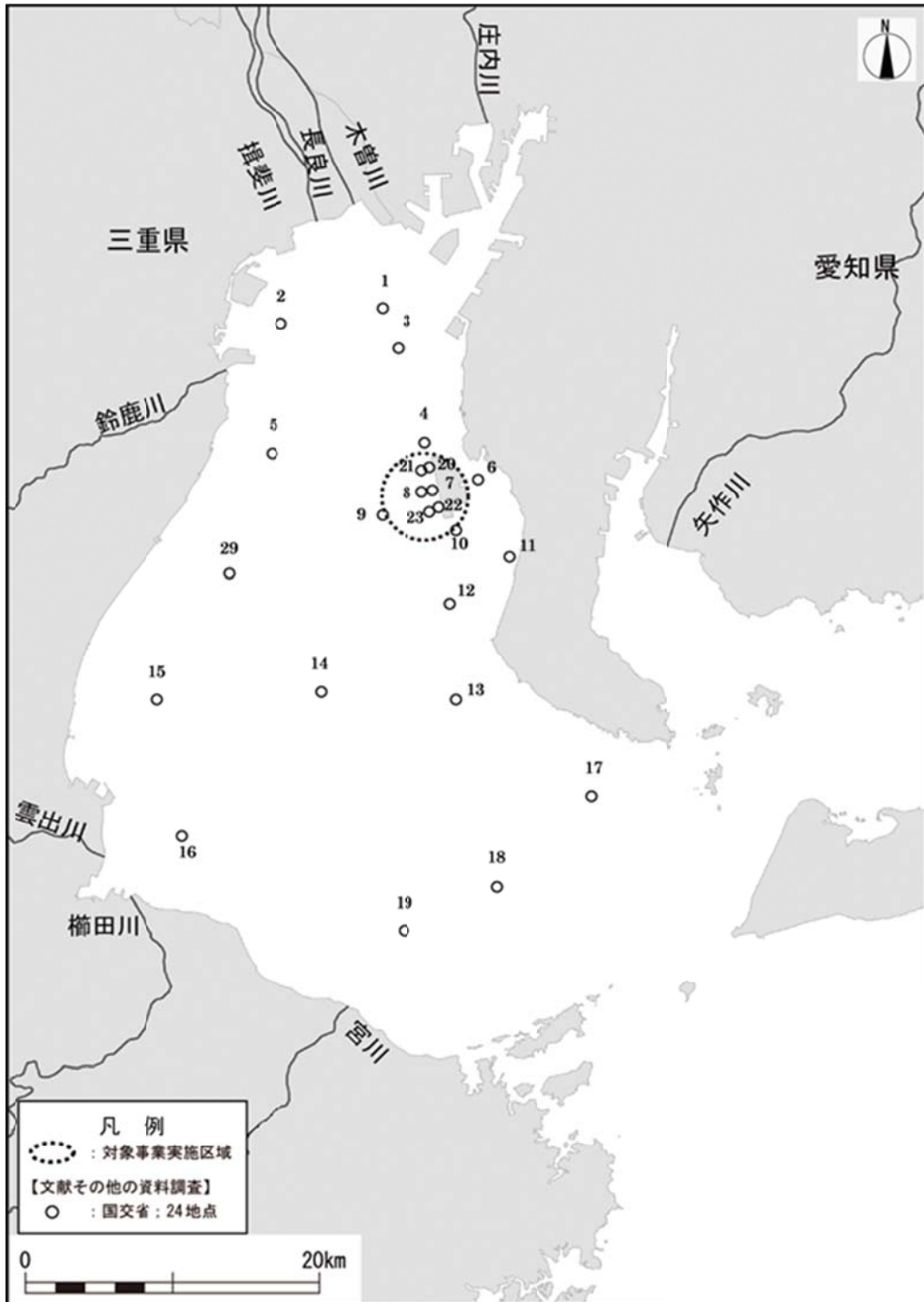


図 4 底生生物の調査地点 (方法書 261 ページ図 5. 2-13(3) に一部加筆)



表 3 海生動物（底生生物）の調査内容

調査名	調査手法	調査地点	調査時期等
底生生物	スミスマッキンタイヤによる採泥（採泥面積：1/20m <sup>2</sup> ）を3回行い、表層泥を1mm篩にて採取、同定分析	平成 26、27 年度 ・調査地点：23 地点（No. 1～23）	平成 26、27 年度 四季（5、8、11、1 又は 2 月）
	〃	平成 28 年度 ・調査地点：14 地点 （No. 3～10、19～23、29）	平成 28 年度 各月：No. 4、6～10、20～23、 29 の 11 地点 四季（5、8、11、2 月）：No. 3、 5、10 の 3 地点

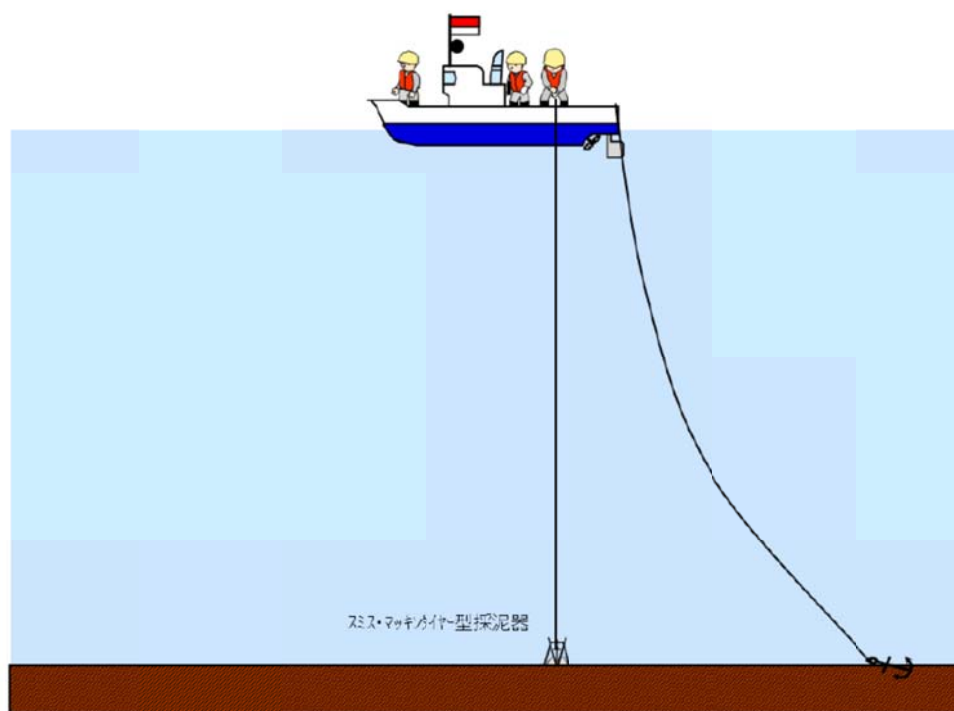


図 5 調査実施方法（底生生物）

【文献名】

- 「平成 25 年度 名古屋港新土砂処分場漁業影響検討業務報告書」（国土交通省中部地方整備局 平成 27 年）
- 「平成 27 年度 名古屋港新土砂処分場漁業影響検討業務報告書」（国土交通省中部地方整備局 平成 28 年）
- 「平成 28 年度 名古屋港新土砂処分場漁業影響予測検討業務報告書」（国土交通省中部地方整備局 平成 29 年）

【付着生物】

対象事業実施区域及びその周辺の海域の付着生物の状況を把握するための調査であり、調査地点は図 6 のとおり中部国際空港島及び周辺海域の護岸の 14 測線です。

調査内容は表 4、調査実施方法は図 7 のとおりです。

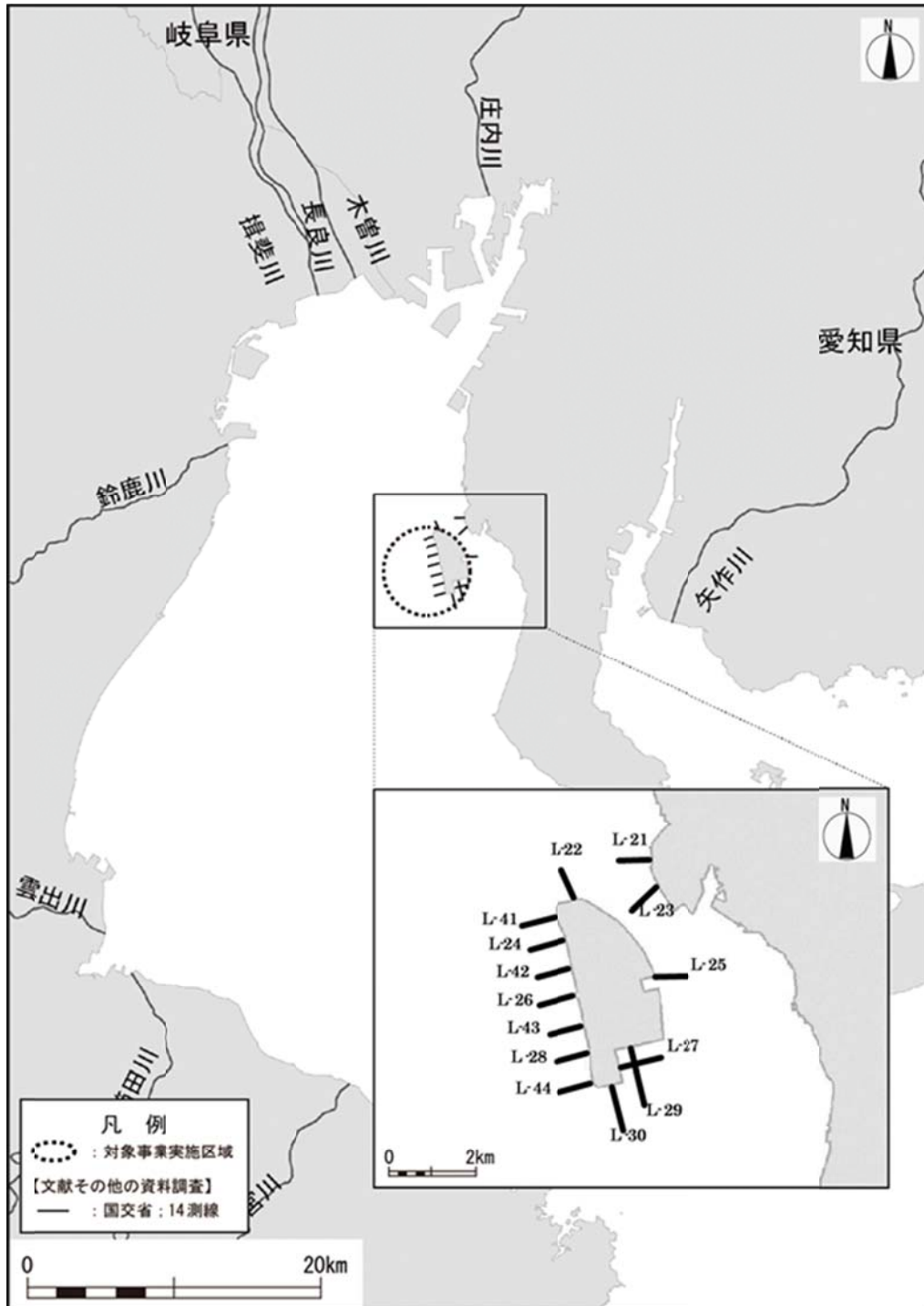


図 6 付着生物の調査地点 (方法書 262 ページ図 5. 2-13(4) に一部加筆)

表 4 海生動物（付着生物）の調査内容

調査名	調査手法	調査地点	調査時期等
付着生物	50×50cm 方形枠による目視観察及び採取、同定分析	平成 26 年度 ・調査測線： 空港島護岸 8 測線 (L22、L24～30) 対岸部 2 測線 (L21、L23) ・採取水深： 1 測線あたり地盤に応じて 3 地点 (D. L. +0.4m、-1.0m、-2.0m)	平成 26 年度 四季 (5、8、11、1 又は 2 月)
	〃	平成 27 年度 ・調査測線：空港島護岸 11 測線 (L22、L24、L26～30、L41～44) ・採取水深 1 測線あたり地盤に応じて 5 地点 (D. L. +0.4m、-1.0m、-2.0m、 -3.0m、-4.0m)	平成 27 年度 四季 (5、8、11、1 又は 2 月)
	〃	平成 28 年度 ・調査測線：空港島護岸 11 測線 (L22、L24、L26～30、L41～44) ・採取水深 1 測線あたり地盤に応じて 5 地点 (D. L. +0.4m、-1.0m、-2.0m、 -3.0m、-4.0m)	平成 28 年度 四季 (5、8、11、1 又は 2 月)

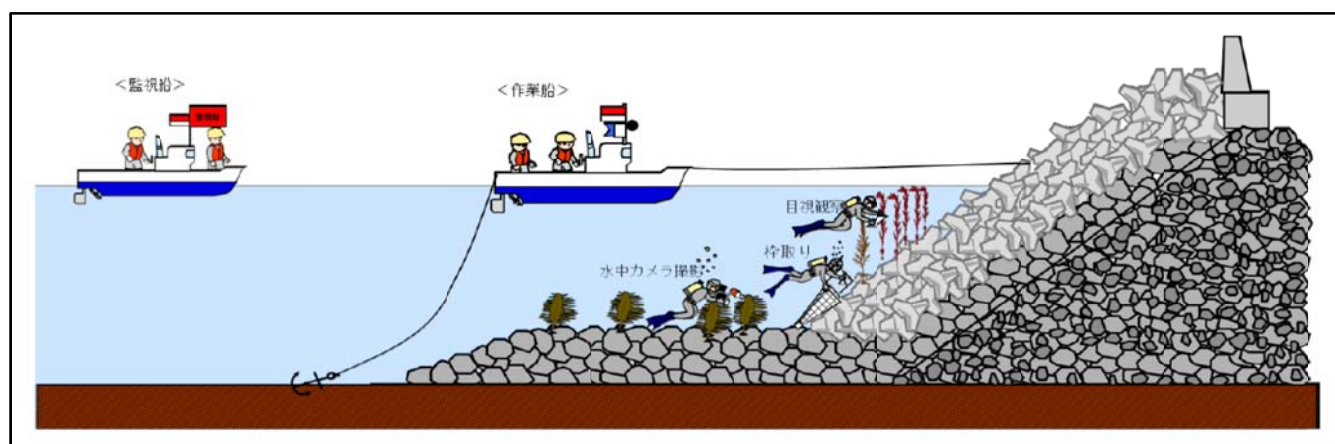


図 7 調査実施方法（付着生物）

【文献名】

- 「平成 25 年度 名古屋港新土砂処分場漁業影響検討業務報告書」（国土交通省中部地方整備局 平成 27 年）
- 「平成 27 年度 名古屋港新土砂処分場漁業影響検討業務報告書」（国土交通省中部地方整備局 平成 28 年）
- 「平成 28 年度 名古屋港新土砂処分場漁業影響予測検討業務報告書」（国土交通省中部地方整備局 平成 29 年）

### 【魚卵・稚仔魚】

対象事業実施区域及びその周辺の海域の魚卵及び稚仔魚の状況を把握するための調査であり、調査地点は図 8 のとおり伊勢湾内の 23 地点です。

調査内容は表 5、調査実施方法は図 9 のとおりです。

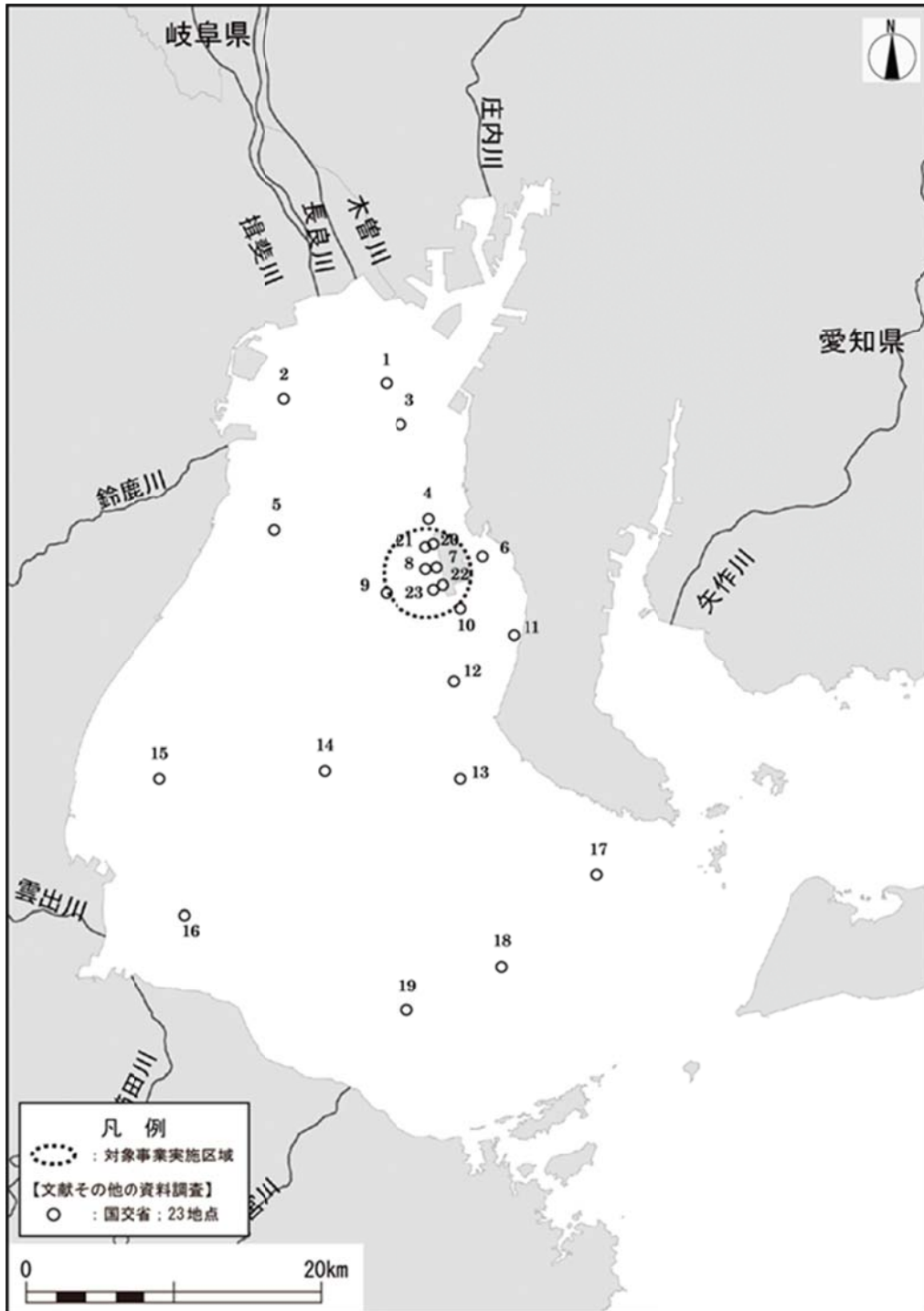


図 8 魚卵・稚仔魚の調査地点（方法書 263 ページ図 5. 2-13(5)に一部加筆）

表 5 海生動物（魚卵・稚仔魚）の調査内容

調査名	調査手法	調査地点	調査時期等
魚卵・稚仔魚	改良型ノルパックネット（網地 NGG52）による傾斜曳きによる採取、同定分析	平成 26 年度 ・調査地点：23 地点（No. 1～23） ・採取層 海底上 1.0m から海表面までの傾斜曳き（2 ノット、10 分間）	平成 26 年度 16 回／年 月 2 回（4～6 月、3 月） 月 1 回（7～2 月）
	丸稚ネット及び MTD ネットによる 2 層曳きによる採取、同定分析	平成 27 年度 ・調査地点：23 地点（No. 1～23） ・採取層 丸稚ネット：海面下 1m MTD ネット：海面下 5m 2 ノット、10 分の水平曳	平成 27 年度 16 回／年 月 2 回（4～6 月、3 月） 月 1 回（7～2 月）
	”	平成 28 年度 ・調査地点：23 地点（No. 1～23） ・採取層 丸稚ネット：海面下 1m MTD ネット：海面下 5m 2 ノット、10 分の水平曳	平成 28 年度 16 回／年 月 2 回（4～6 月、3 月） 月 1 回（7～2 月）

注：1. 丸稚ネット（口径：130cm、開口部面積：1.3m<sup>2</sup>、網地：全面 NGG52（目合い 335μm））

2. MTD ネット（口径：56cm、開口部面積：0.25m<sup>2</sup>、網地：NGG52（目合い 335μm））

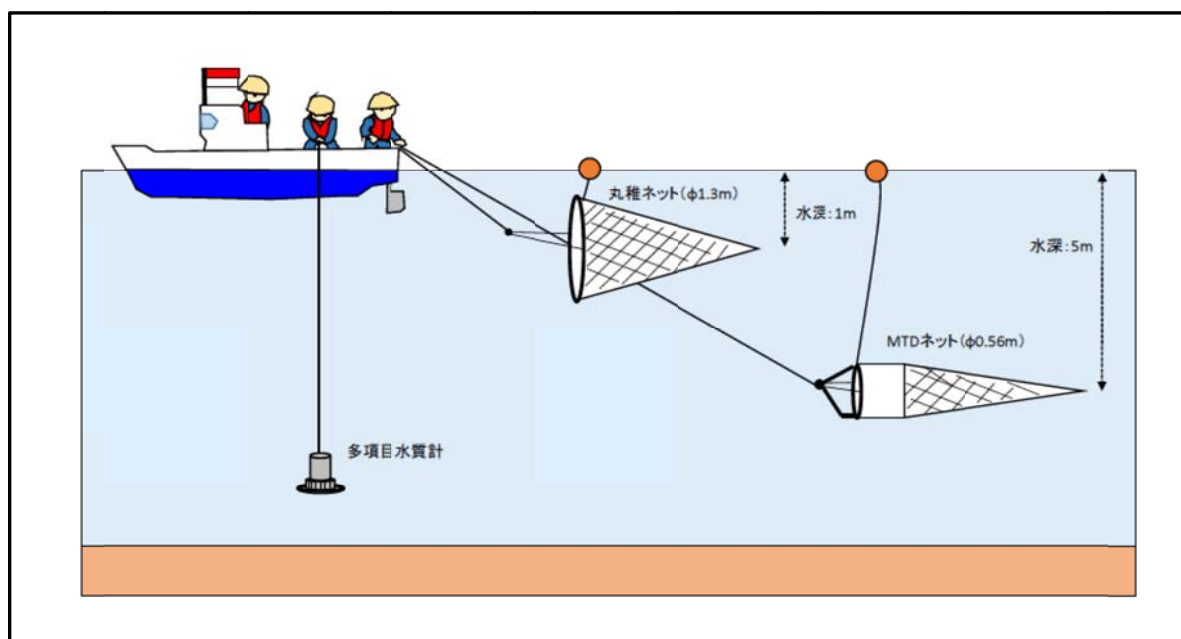


図 9 調査実施方法（魚卵・稚仔魚）

【文献名】

「平成 25 年度 名古屋港新土砂処分場漁業影響検討業務報告書」（国土交通省中部地方整備局 平成 27 年）

「平成 27 年度 名古屋港新土砂処分場漁業影響検討業務報告書」（国土交通省中部地方整備局 平成 28 年）

「平成 28 年度 名古屋港新土砂処分場漁業影響予測検討業務報告書」（国土交通省中部地方整備局 平成 29 年）

【魚類（底生魚類）】

対象事業実施区域及びその周辺の魚類（底生魚類）の状況を把握するための調査であり、調査地点は図 10 のとおり伊勢湾内の 20 地点です。

調査内容は表 6、調査実施方法は図 11 のとおりです。

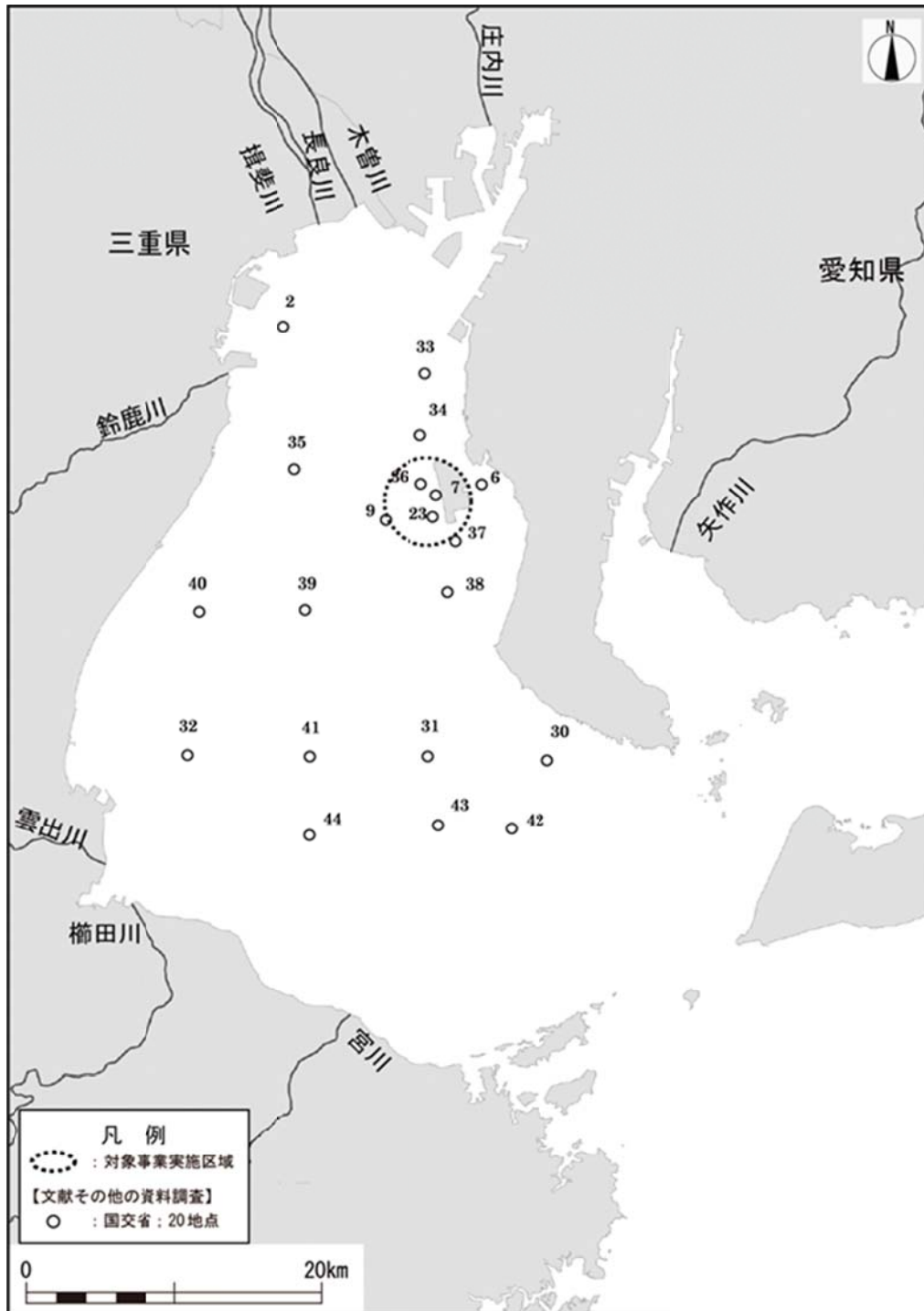


図 10 魚類（底生魚類）の調査地点（方法書 264 ページ図 5.2-13(6)に一部加筆）

表 6 海生動物（魚類：底生魚類）の調査内容

調査名	調査手法	調査地点	調査時期等
底生魚類	小型底曳網（15分間曳網）	平成 26 年度 ・調査地点：20 地点 (No. 2、6、7、9、23、30～44)	平成 26 年度 各月
	小型底曳網（15分間曳網） 開口部長さ：10m、袖網目 合：7～9 節、袋網目合：14 節	平成 27 年度 ・調査地点：20 地点 (No. 2、6、7、9、23、30～44)	平成 27 年度 各月
	〃	平成 28 年度 ・調査地点：20 地点 (No. 2、6、7、9、23、30～44)	平成 28 年度 各月

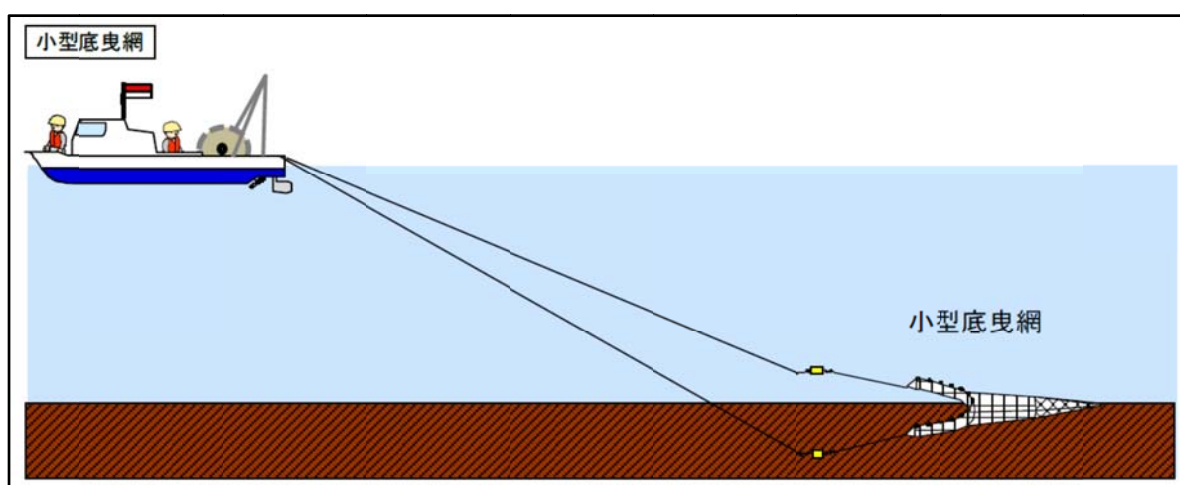


図 11 調査実施方法（底生魚類）

【文献名】

- 「平成 25 年度 名古屋港新土砂処分場漁業影響検討業務報告書」（国土交通省中部地方整備局 平成 27 年）
- 「平成 27 年度 名古屋港新土砂処分場漁業影響検討業務報告書」（国土交通省中部地方整備局 平成 28 年）
- 「平成 28 年度 名古屋港新土砂処分場漁業影響予測検討業務報告書」（国土交通省中部地方整備局 平成 29 年）

【魚類（浮魚類）】

対象事業実施区域及びその周辺の魚類（浮魚類）の状況を把握するための調査であり、調査地点は図 12 のとおり伊勢湾内の 10 地点です。

調査内容は表 7、調査実施方法は図 13 のとおりです。

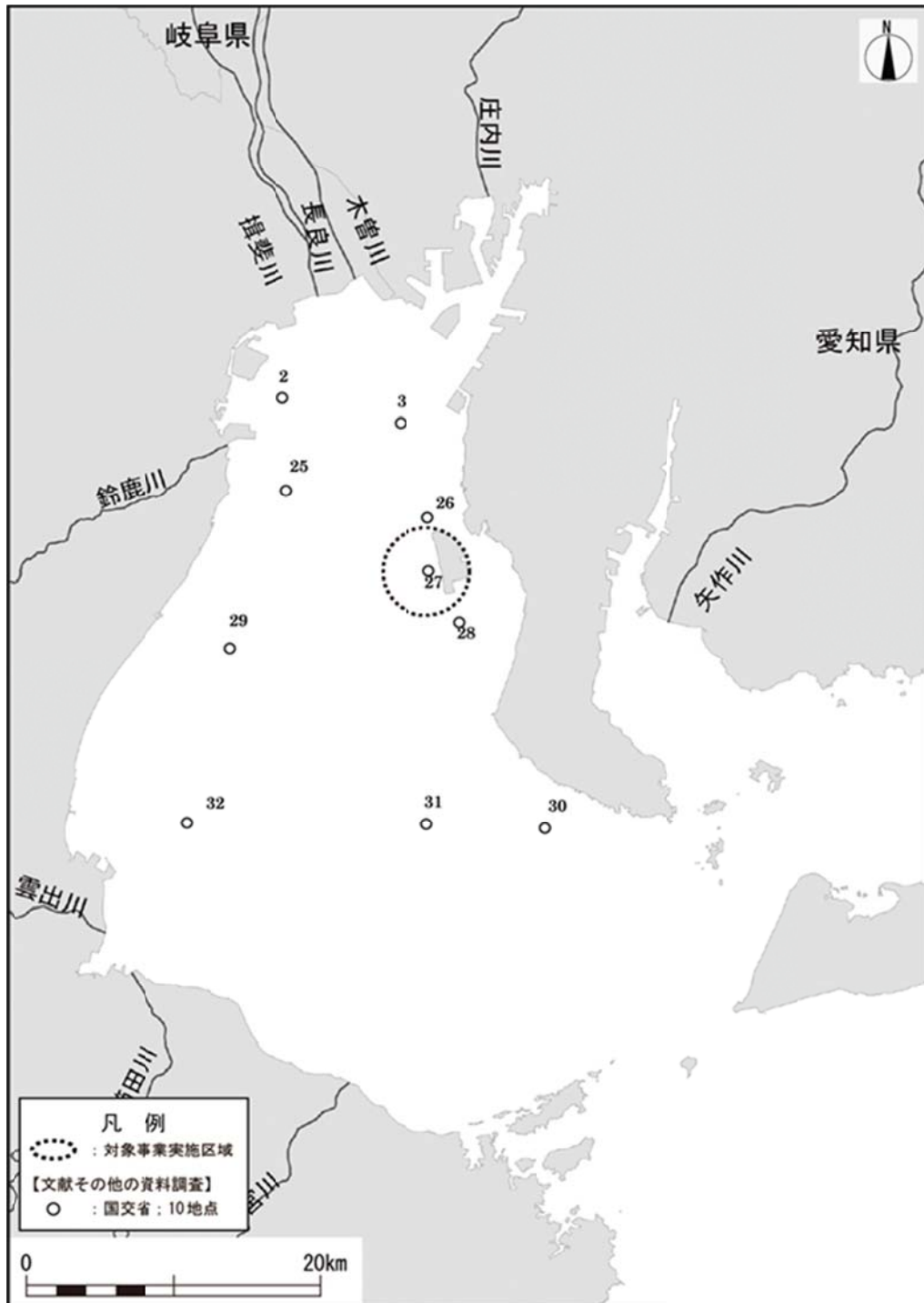


図 12 魚類（浮魚類）の調査地点（方法書 265 ページ図 5.2-13(7)に一部加筆）



表 7 海生動物（魚類：浮魚類）の調査内容

調査名	調査機関／調査手法	調査地点	調査時期等
浮魚類	船曳網（10分間曳航）袋網の開口部長さ15m、曳航速度2ノット	平成26～28年度 10地点（No.2、3、25～32）	平成26～28年度 各月

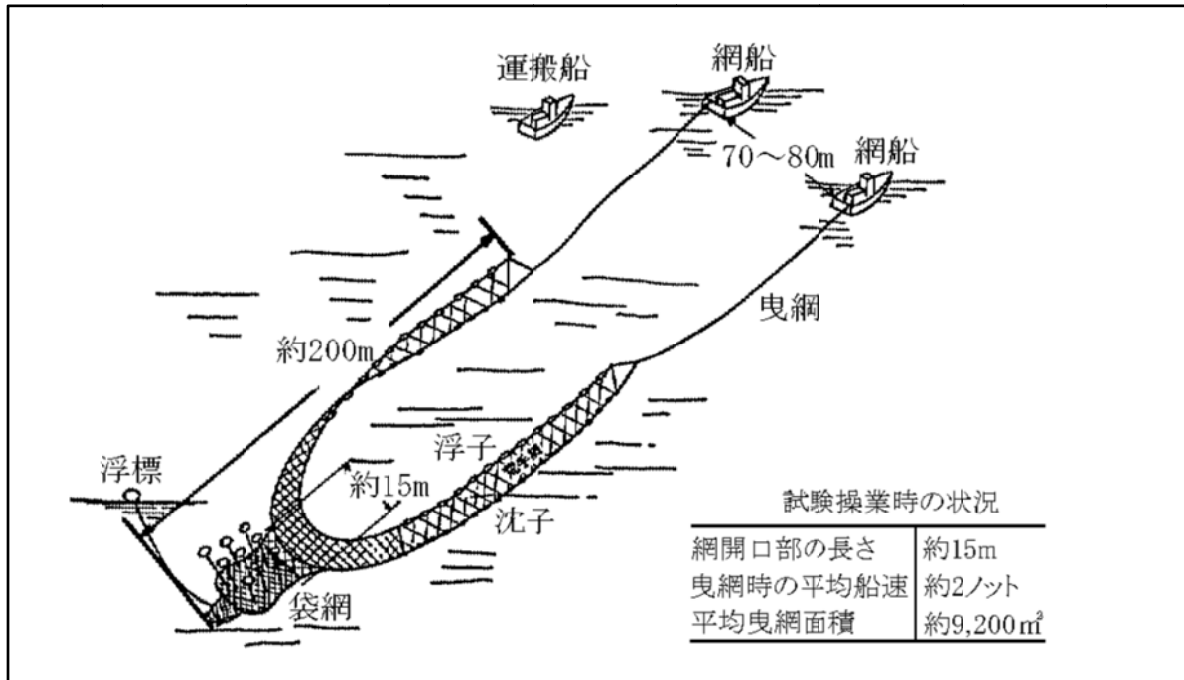


図 13 調査実施方法（浮魚類）

【文献名】

- 「平成25年度 名古屋港新土砂処分場漁業影響検討業務報告書」（国土交通省中部地方整備局 平成27年）
- 「平成27年度 名古屋港新土砂処分場漁業影響検討業務報告書」（国土交通省中部地方整備局 平成28年）
- 「平成28年度 名古屋港新土砂処分場漁業影響予測検討業務報告書」（国土交通省中部地方整備局 平成29年）

【干潟生物】

対象事業実施区域及びその周辺の干潟の生物の状況を把握するための調査であり、調査地点は図 14 のとおり知多半島の干潟の 6 測線です。

調査内容は表 8、調査実施方法は図 15 のとおりです。



図 14 干潟生物の調査地点（方法書 266 ページ図 5.2-13(8)に一部加筆）

表 8 海生生物（干潟生物）の調査内容

調査名	調査機関／調査手法	調査地点	調査時期等
マクロベントス	20×20cm 方形枠による採泥、1mm 篩にて採取、同定分析	平成 26 年度 ・調査測線：6 測線 1 測線あたり以下の地盤で採取 L1～L6：1 測線あたり 5 地点 (D. L. +1.3m、+0.4m、±0.0m、-1.0m、-3.0m)	平成 26 年度 四季（5、8、11、1 又は 2 月）
	”	平成 27 年度 ・調査測線：6 測線 1 測線あたり以下の地盤で採取 L1～L6：1 測線あたり 5 地点 (D. L. +1.3m、+0.4m、±0.0m、-1.0m、-3.0m)	平成 27 年度 四季（5、8、11、1 又は 2 月）
	”	平成 28 年度 ・調査測線：6 測線 1 測線あたり以下の地盤で採取 L1～L6：1 測線あたり 5 地点 (D. L. +1.3m、+0.4m、±0.0m、-1.0m、-3.0m)	平成 28 年度 四季（5、8、11、1 又は 2 月）
稚魚調査	碎波帯ネット及び水流噴射式ネットによる試料採取	平成 27 年度 ・調査測線：6 測線 碎波帯ネット：碎波帯付近で採取 水流噴射式ネット：D. L. +0.4m 付近で採取	平成 27 年度 四季（5、8、11、1 又は 2 月）
	”	平成 28 年度 ・調査測線：6 測線 碎波帯ネット：碎波帯付近で採取 水流噴射式ネット：D. L. +0.4m 付近で採取	平成 28 年度 四季（5、8、11、2 月）

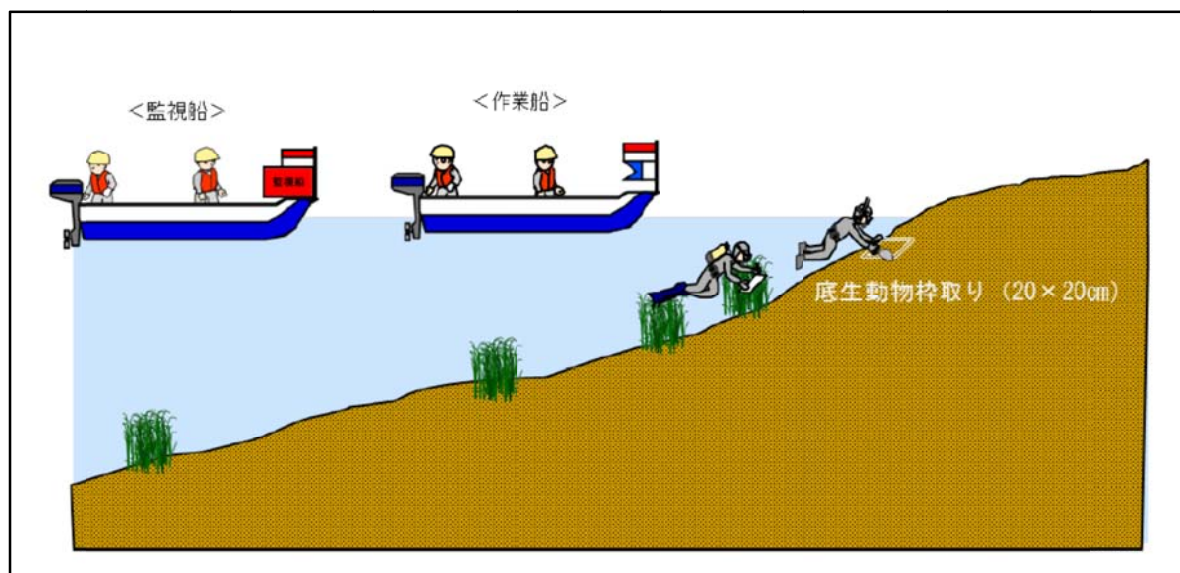


図 15(1) 調査実施方法（干潟生物：マクロベントス）

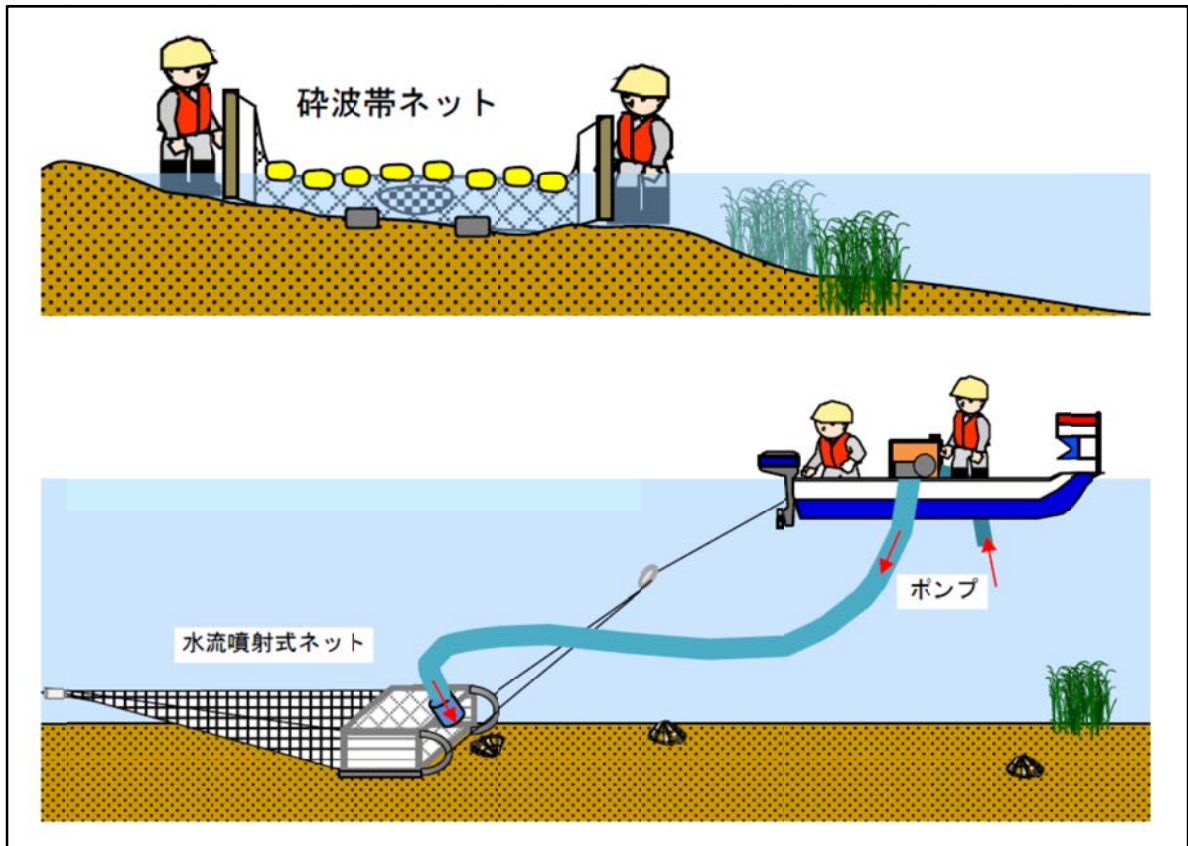


図 15(2) 調査実施方法（干潟生物：稚魚調査）

【文献名】

- 「平成 25 年度 名古屋港新土砂処分場漁業影響検討業務報告書」（国土交通省中部地方整備局 平成 27 年）
- 「平成 27 年度 名古屋港新土砂処分場漁業影響検討業務報告書」（国土交通省中部地方整備局 平成 28 年）
- 「平成 28 年度 名古屋港新土砂処分場漁業影響予測検討業務報告書」（国土交通省中部地方整備局 平成 29 年）

【藻場生物】

対象事業実施区域及びその周辺の藻場の生物の状況を把握するための調査であり、調査地点は図 16 のとおり中部国際空港島及び周辺の護岸の 20 測線です。

調査内容は表 9、調査実施方法は図 17 のとおりです。

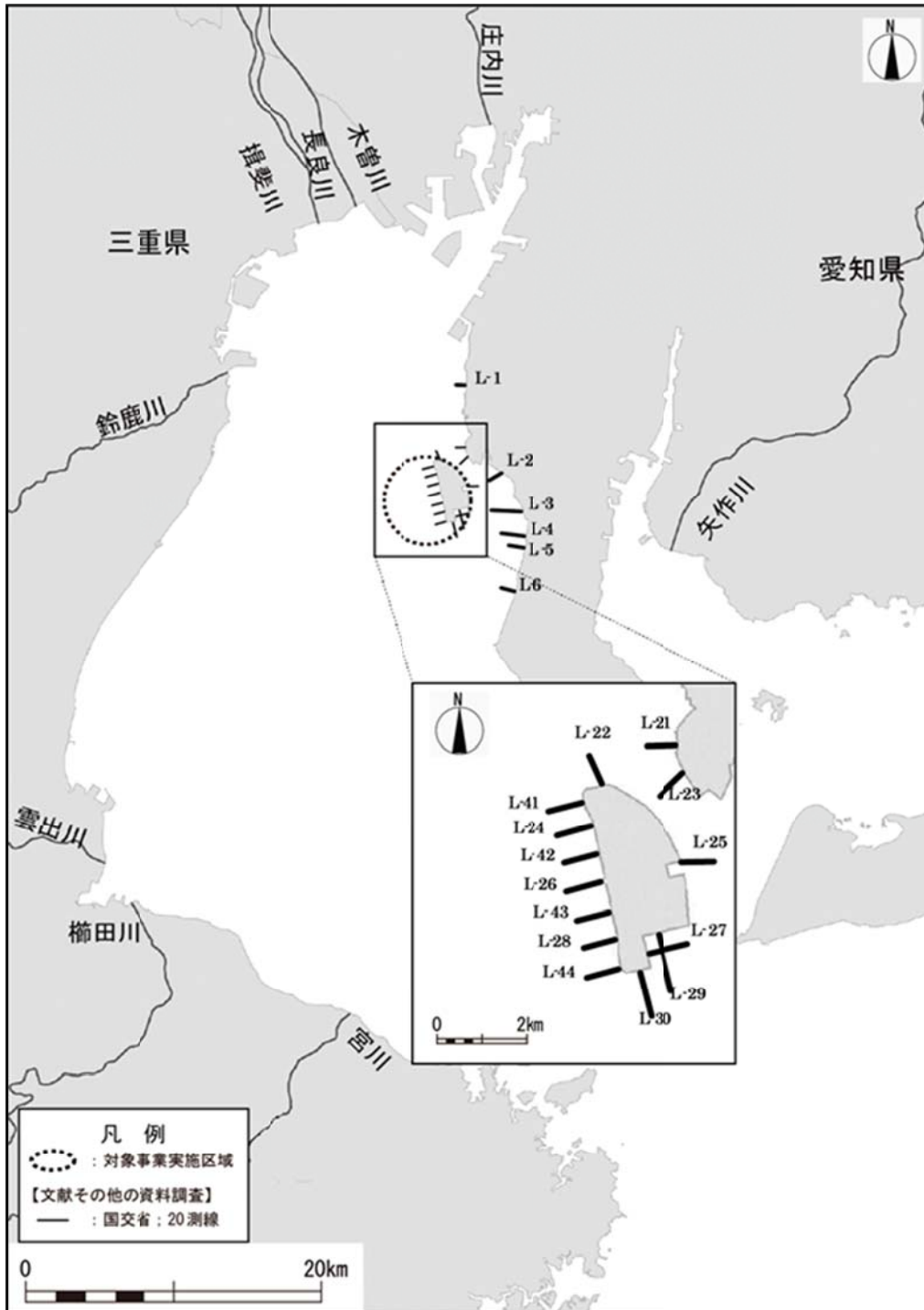


図 16 藻場生物の調査地点 (方法書 267 ページ図 5.2-13(9)に一部加筆)

表 9 海生動物（藻場生物）の調査内容

調査名	調査手法	調査地点	調査時期等
底生生物	0.5×0.5mの枠取りを3 回行い、1mm篩で採取、同 定分析	L1～L6 1 測線あたり 3 地点 (D.L. ±0.0m、-1.0m、-3.0m)	平成 26～28 年度 四季 (5、8、11、1 又は 2 月)
葉上生物	0.5×0.5mの枠取りによ る採取、同定分析	L1～L6 1 測線あたり 3 地点 (D.L. ±0.0m、-1.0m、-3.0m)	平成 26～28 年度 四季 (5、8、11、1 又は 2 月)
幼稚仔	ソリネットによる採取、 同定分析	L1～L6 1 測線あたりソリネットにより 100m 曳網	〃
魚卵その 1	改良型ノルパックネット による魚卵の採取、同定 分析	L1～L6 1 測線あたり改良型ノルパッ クネットにより表層の 100m 曳網	平成 26、27 年度 四季 (5、8、11、1 又は 2 月)
魚卵その 2	藻場を代表する箇所 で 50×50cm の枠取り、海草藻 類に付着する魚卵を採取	L1～L6 1 測線あたり 1 箇所	平成 28 年度 四季 (5、8、11、1 又は 2 月)
大型底生生物 (空港島護岸)	1×1m の枠内の大型底生 生物を採取、同定分析	L21～L30 1 測線あたり 3 地点 (D.L. +0.4m、-1.0m、-2.0m) 空港島護岸のほか対岸の 2 測線 を含む	平成 26 年度 四季 (5、8、11、1 又は 2 月)
葉上生物 (空港島護岸)	50cm×50cm 方形枠による 葉上動物の採取、同定分 析	4 測線 (L24、L26、L28、L30) 1 測線あたり 3 ヶ所で採取	平成 27 年度 5～3 月の期間で 11 回実施 平成 28 年度 4～3 月の期間で 9 回実施
目視観察 (空港島護岸)	各測線で 1m 間隔で観察さ れた魚介類をサイズ区分 毎に計数 (カサゴ、メバ ル、アイナメ、ウニ類、 サザエ、マナマコ等の水 産有用種)	11 測線 (L22、L24、L26～30、L41 ～44) 各測線で 1m 間隔で観察された魚 介類をサイズ区分毎に計数	平成 27、28 年度 四季 (5、8、11、2 月)
魚卵 (空港島護岸)	50cm×50cm 方形枠による 海草藻類に付着する魚卵 の採取、同定分析	4 測線 (L24、L26、L28、L30) 1 測線あたり 3 ヶ所で海草藻類に 付着する魚卵の採取	平成 28 年度 4～3 月の期間で 9 回実施

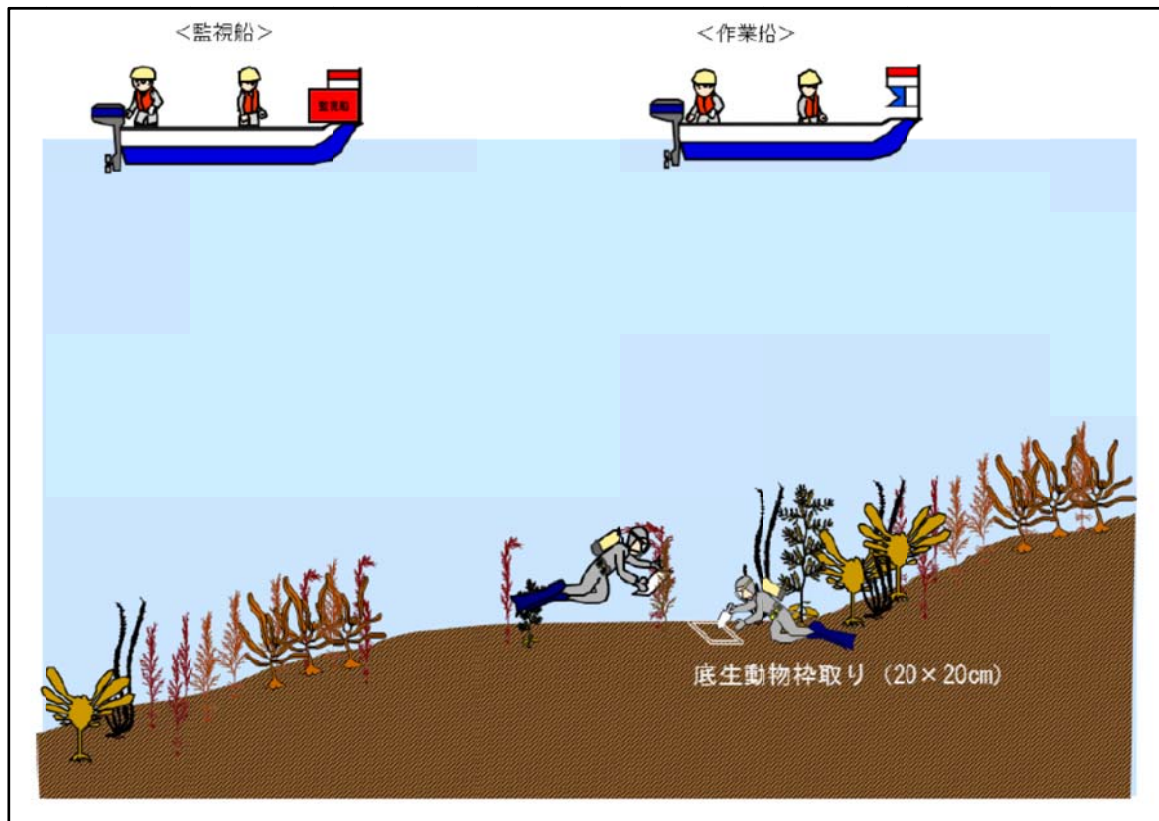


図 17(1) 調査実施方法 (藻場生物：底生動物)

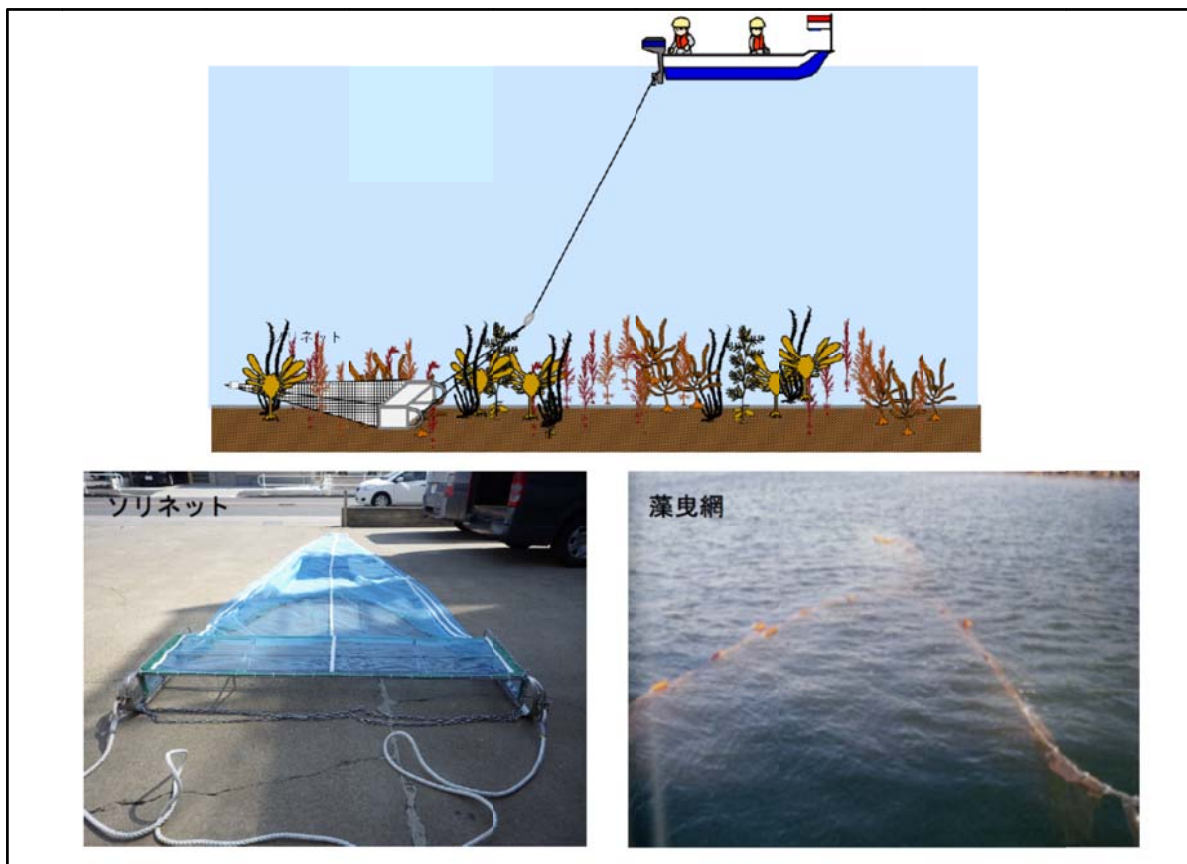


図 17(2) 調査実施方法 (藻場生物：幼稚仔調査)

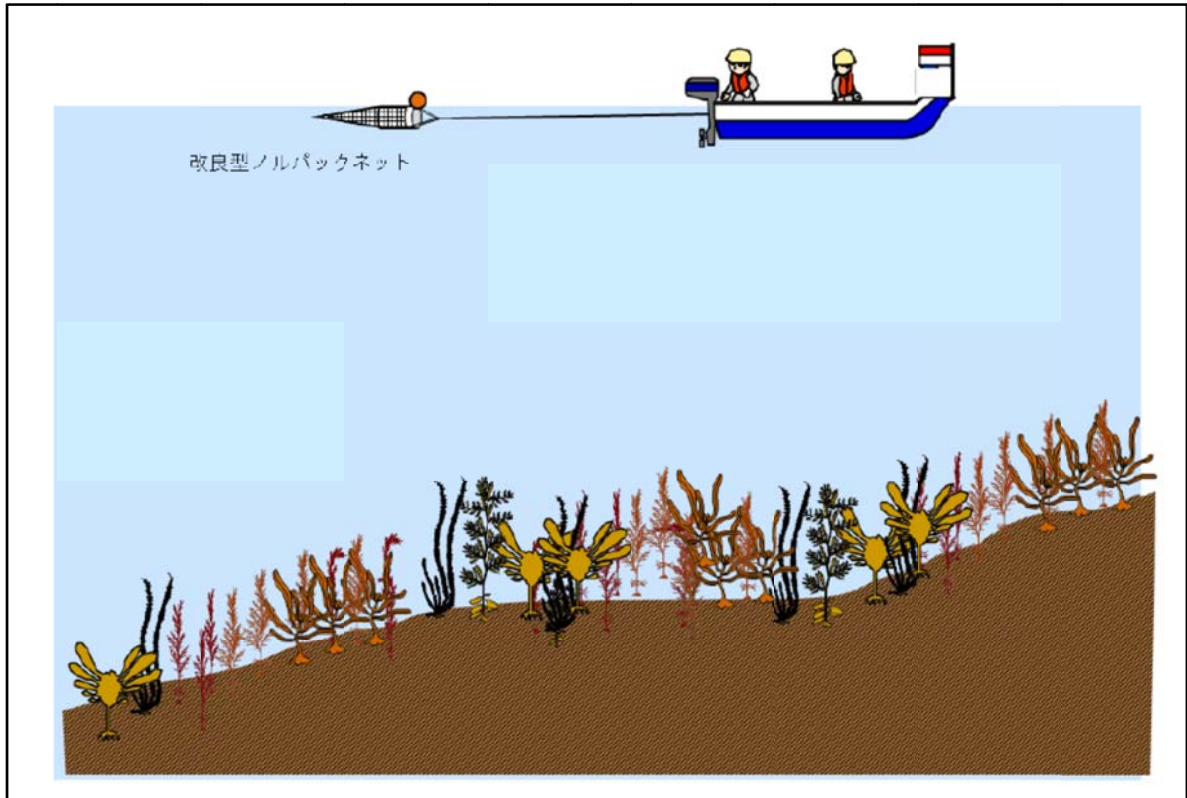


図 17(3) 調査実施方法（藻場生物：魚卵調査）

【文献名】

- 「平成 25 年度 名古屋港新土砂処分場漁業影響検討業務報告書」（国土交通省中部地方整備局 平成 27 年）
- 「平成 27 年度 名古屋港新土砂処分場漁業影響検討業務報告書」（国土交通省中部地方整備局 平成 28 年）
- 「平成 28 年度 名古屋港新土砂処分場漁業影響予測検討業務報告書」（国土交通省中部地方整備局 平成 29 年）



【海棲哺乳類（スナメリ）】

スナメリに関する継続的なデータとして、知多半島沿岸でストラディングデータが蓄積されています。また、伊勢湾全体としては、冬季に湾奥の名古屋港内に多く出現することが推察されています。

一方、湾中央にあたる対象事業実施区域の周囲でのスナメリの生息状況について把握されていないことから、現地調査により対象事業実施区域の周辺海域で目視観察による調査を実施する計画としました。調査地点は図 18 のとおり中部国際空港島及び周辺の海域です。

調査内容は表 10 のとおりです。



図 18 海棲哺乳類（スナメリ）の調査地点（方法書 269 ページ図 5.2-13(11)）

表 10 海生動物（スナメリ）の調査内容

調査名	調査手法	調査地点	調査時期等
海棲哺乳類 (スナメリ)	船舶トランセクト調査による目視観察	測線総距離：79kmの測線	平成28年度 5、8、11、2月 各調査月において3日間の連続

注：1. 目視観察は、原則風力4以下の海況において、作業船の両舷にそれぞれ観測員を配置し、船速10～13ノットで航行し、肉眼及び双眼鏡によりスナメリの目視観察を行う。

2. 観測項目は以下のとおりとする。

- ・出現日時、位置、頭数
- ・出現した群れの状況（同じ大きさの群れ、子連れ等）
- ・行動状況（遊泳、漂い、摂餌等）
- ・デジタルカメラによる動画撮影または写真撮影記録

### 【海棲爬虫類（ウミガメ）】

対象事業実施区域の周辺海域では、ウミガメの産卵上陸が年に数回程度確認されており、南知多ビーチランドによる長期的なデータが蓄積されています。対象事業実施区域及びその周辺の海域の海棲爬虫類（ウミガメ）の状況を把握するために、南知多ビーチランドの資料を活用する計画です。調査範囲は図 19 のとおり、知多半島西岸（新舞子地区～野間地区）です。調査内容は表 11 のとおりです。



図 19 海棲爬虫類（ウミガメ）の調査位置（方法書 268 ページ図 5.2-13(10)）

表 11 海生動物（ウミガメ）の調査内容

調査名	調査手法	調査地点	調査時期等
海棲爬虫類 (ウミガメ)	南知多ビーチランドによる現地踏査、ヒアリング <sup>注</sup> 結果のとりまとめ	知多半島西岸の砂浜	昭和 56 年～平成 26 年 ウミガメの産卵時期の 6～10 月

注：ビーチランド職員による現地踏査や周辺住民からのヒアリングを基にウミガメの産卵、上陸場所、稚ガメ漂着数、産卵数について記録。